

TOKYO URBAN TECH

工学院大学 校友会報

vol.136
2015

Kogakuin University Alumni Association 2015



おかげさまで 100 周年 安全・安心をこれからも

私たちは 2016 年、創立 100 周年を迎えます。

NOHMI 能美防災



能美防災は、自動火災報知設備と消火設備のトップメーカーです。

代表取締役会長 **橋爪 毅** (本学生産機械工学科 1967 年卒)

本 社: 〒102-8277 東京都千代田区九段南4丁目7番3号
西関東支社: 〒192-0082 東京都八王子市東町2番12号

突然の集中豪雨に
すばやく対応。

詳しくはホームページで

三和シャッター

検索



※当社調べ

三和の防水商品

ウォーターガード 防水シャッター

業界初!!※ 浸水高さ**2m**対応

- 防水機能がついた電動パネルシャッター
- 地下鉄や地下街の出入口に最適
- 管理用シャッターとしても使用可能

三和グループ

三和シャッター工業株式会社 03-3346-3011



知的財産ビジネスの専門職集団
特許業務法人

太陽国際特許事務所

所長・弁理士・博士（工学） 中島 淳（S44機械卒・H14大学院電気電子卒）

【機械建築担当弁理士】	福田浩志（副所長）	清武史郎*	堀江千鶴*	坂手英博*	針間一成
	永田淳一	高橋尚子*	内田英男	中村 明	江口和敬*
	御橋優子*	上野敏範*	井上義美	片倉正博	長谷川洋*
【電気電子担当弁理士】	本合孝治	鴨志田伸一	加藤雅嗣	大塚映美	横山達也
	加藤和詳（副所長）	百瀬尚幸	美濃好美*	佐久間顕治*	小早川千佳子
	山口真紀*	宮本治彦	大松崎明子	木村直樹*	島山明大
【化学材料担当弁理士】	小林和幸	田中宏明*	榎原達也		
	西元勝一	都野真哉*	上條由紀子*	下田世津子*	小林美貴*
	設楽修一	早瀬貴介	長野みか*	前嶋恒夫*	有村昌大
【バイオ医薬担当弁理士】	上原和貴	藤田雅也	前田知也	村尾招子	桐内 優
	山中裕子*	渡邊裕子*	中川彰子		
【商標意匠担当弁理士】	宮澤優子	岸武弘樹			
【米国特許弁理士】	関島昌子*	高橋史保*			
【中国弁理士】	シェルダン・モス	チャド・ヘリング			
【韓国弁理士】	董 昭				
【弁理士】	金 駿河				
	中野浩和				

*特定侵害訴訟代理付記

東京本部 : 東京都新宿区新宿4丁目3番17号 〒160-0022
 電話 (03) 3357-5171 (代表) ファクシミリ (03) 3357-5180 (代表)
<http://www.taiyo-nk.co.jp> 相談・連絡用: info@taiyo-nk.co.jp
 USオフィス : 米国バージニア州

ゆとり有る豊かな

社会の実現への貢献

主な商品

- 電気部品材料(各種電気接点およびクラッド材料)
- 電子部品材料(金ボンディングワイヤー、封止材、各種ペースト)
 - 触媒(燃料電池、脱臭)
- 貴金属化合物(自動車排気ガス浄化触媒、めっき浴)
 - 各種めっき浴およびめっき装置
- 各種産業用白金製品(ガラス関係装置、理化学機器用製品)
 - 医療関係(抗癌剤用白金族化合物、マーカー)
- 各貴金属リサイクル(使用済み製品より貴金属回収・精製)

身近な使用例

携帯電話の機能で、バイブレーターがあります。
4ミリ位のモーターを使用しています。
そこに使用されている小さなブラシはほとんど弊社のものです。

田中貴金属グループ



田中貴金属工業株式会社

〒100-6422 東京都千代田区丸の内2丁目7-3
東京ビルディング22階
TEL (03) 6311-5511(代表)
☎0120-266011
URL : <http://www.tanaka.co.jp>



電気設備 設計施工
太陽光発電システム・オール電化設備
設計施工
介護予防 通所介護施設

牧野電設工業株式会社

代表取締役 牧野 光洋 (1979年 専門学校電気科卒)



■本社(代表)
TEL/03-3313-2511 FAX/03-3313-2509



■甲府営業所
TEL/055-268-6016
FAX/055-275-4015



■元気広場 梅里
TEL/03-6383-2406
FAX/03-6383-2407

URL <http://www.makino-dk.co.jp/>

来校の節は是非お立ち寄り下さい。懇親会も出来ます。
これからも宜しくお願いします。



新宿キャンパス7階の食堂
(懇親会は8階ファカルティクラブでも開催可能)

新宿食堂部 TEL03-3348-0147



八王子キャンパス学生センター
800席の広い食堂

八王子食堂部 TEL042-626-3782

工学院大学学園生活協同組合

本部TEL03-3346-3240 FAX03-3342-0980

e-mail:seikyo@kucoop.or.jp http://www.univcoop.jp/kogakuin



くつろぎ、味わい、楽しむ。

ホテルのあたたかさ
感じてください。



 京王フラザホテル

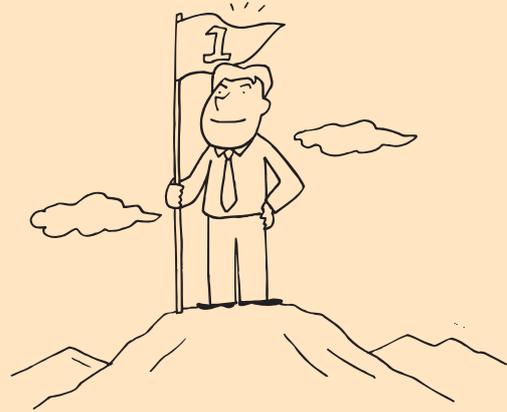
〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1
TEL.(03)3344-0111

<http://www.keioplaza.co.jp/>

JR・私鉄・地下鉄「新宿駅(西口)」「西新宿駅」より徒歩5分
都営大江戸線「都庁前駅」B1出口すぐ

お客様にとって いちばんの印刷会社になろう。

NPC日本印刷の仕事は、
お客様のお役に立つこと。
「やっぱり**NPC**でなくちゃ」といわれる
会社をめざして、がんばっています。



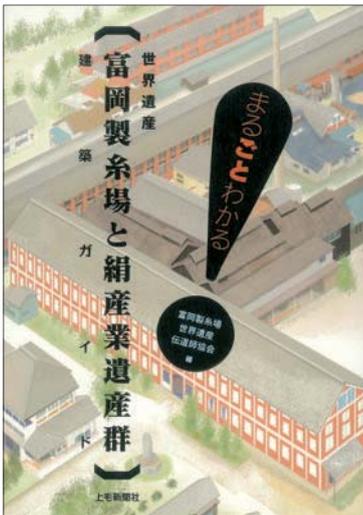
NPC 日本印刷株式会社

〒113-0034
東京都文京区湯島3-20-12 第2ツナシマビル
電話03(3833)6971(代) <http://www.npc-tyo.co.jp/>

校友による著書紹介

まるごとわかる世界遺産
富岡製糸場と絹産業遺産群
建築ガイド

富岡製糸場世界遺産伝道師協会 編著

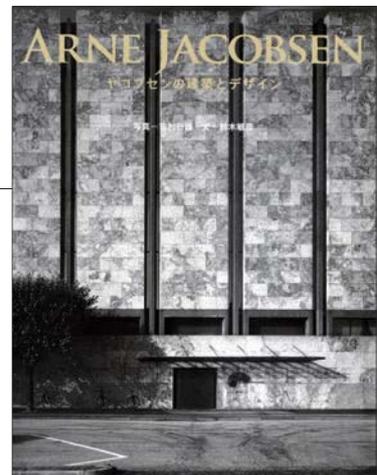


株式会社 上毛新聞社
2014年8月6日 発行
A5判 120頁 1,200円+税

ヤコブセンの建築と デザイン

鈴木敏彦 (工学院大学教授)
／吉村行雄 (写真)

TOTO出版 327ページ
4,600円+税
2014年6月20日



本書は、2014年6月に世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹遺産群」と、群馬県内の養蚕や製糸、織物、それらの流通といった絹産業に関連する建築遺産の見どころを写真とイラストを使って余すところなく紹介したガイドブックである。

1972年に工学院大学建築学部を卒業し、群馬県文化財保護審議会専門委員を務めている村田敬一博士（工学院大学校友会群馬県支部長）が監修、自ら執筆もしている。

21世紀の北歐モダニズムの巨匠、アルネ・ヤコブセン。鈴木先生はデンマーク取材を重ね、建築、インテリア、プロダクトのトータルデザインを解明した。全カラーページの撮り下ろし写真で階段や手すりの優雅な曲線や、巧みな勾配屋根の設計に迫る。1927年のデビュー作「未来の家」から1961年の遺作「デンマーク国立銀行」に至るまで、植物を愛し、細かく植栽を指定した設計図は必見。



Contents

Kogakuin University Alumni Association 2015

【挨拶】

一般社団法人 工学院大学 校友会 会長 田中英生	6
学校法人 工学院大学 理事長 高田 貢	8
工学院大学 学長 佐藤光史	9
工学院大学附属中学校・高等学校 校長 平方邦行	10

【イベント報告】

第2回社員総会報告・第3回社員総会案内	11
新春の集い2015 開催報告	12
平成26年度全国支部長会報告	14
「第17回全国大会・埼玉大会」盛会裏に閉幕	15

【学園 Topics】

16

【ご寄稿】

ふりだし会 ～工学院工業専門学校機械科第一回卒業生の会～	22
---------------------------------	----

【同窓生だより】

平時は損得、非常時は道理 田中瑞樹	24
私の仕事歴 思えば苦手なことばかり 町田祐一	26
キャリアデザイン 遠藤浩治	28

日本のランドスケープアーキテクト像を求めて 井上洋司	30
和太鼓祭座と出会って— 小林鶴夫	32
ふりかえって見た私の歩み 梶野和己	34

【校友会情報】

全国の支部から	36
同窓会から	38
OB会から	40

【2014年各部会の活動報告】

総務部・財務部・広報部・同窓会組織部・ 支部組織部・学園連携部	41
------------------------------------	----

【校友会事務局からのお知らせ】

2015年度校友会の主な行事予定	44
受賞者／表彰者／訃報	45
第2回校友会代議員選挙投票結果	46
科学教育センターより科学機器の収集・展示のお知らせ	47
校友会談話室のご利用について／ ファカルティクラブのご利用について	48

校友会の更なる 活性化に向けて。

一般社団法人
工学院大学 校友会 会長
田中 英生
Hideo Tanaka



皆さん、こんにちは、今年度から2年間、校友会会長を仰せつかりました1965年機械工学科卒業の田中英生でございます。

工学院大学校友会は6つの同窓会すなわち機械系同窓会、化学系同窓会、電気系同窓会、建築系同窓会、付属高校同窓会、専門学校同窓会で成り立っております。

連絡が取れる方々が約7万人、残念ながら連絡の取れない約3万人ほどの方々を加え、合計約10万人の校友を擁する大きな校友会であります。

今まで長い間の長嶋秀世前会長、高田貢元会長、そして多くの会長をやって来られた方々、そしてその周りで支えて来て下さいました学園や後援会や校友の皆さまの努力のたまものとして、現在の大変立派な工学院大学校友会がございます。

この紙面をお借りしまして、そのご努力に心からお礼を申し上げたいと思います。

これからの2年間はこの諸先輩や皆さま方の業績に恥じないよう、わたくしが頑張っていくたいと思います。

さて、少しこれからの校友会の進むべき方向を模索するお話をしてみたいと思います。

わが工学院大学校友会の定款には2つの目的があり、それは学園の教育事業の援助と発展に資する事と校友の親睦提携をはかる事です。

まず、1番目の学園の教育事業の援助と発展に資するという目的の為に、学園の理事会、評議員会、各種委員会への参画、校友会報の発行、講演会等の開催、学生の研究や体育・文化活動・福祉等に対する研究支援金などの助成、学園イベントのお手伝いや機材の融通などの協力を行っています。今日までこうした事に携わって来られた校友の皆さんの素晴らしい経歴、経験、見識、技術力、実行力が学園の発展に寄与して来た訳ですが、そう言った資質を持つ校友の皆さんを如何に継続的に今後も送り出せるかが校友会の学園に対する一番の存在意義であろうと言っているのではないのでしょうか。

人材と言いますと、人材を発掘する事と人材を育てると言う2つの方法がありますが、すでに完成しておられる年配の方々を育てるなどと言う事は大変難しいものです。勢い、すでに能力をお持ちの方々の発掘の方に目が行く訳ですが、その対象となる校友の方々の母数が多ければ多いほど好ましい訳で、それには可能な限り大勢の校友の皆さまの目を校友会に向けさせる事が必要になります。そして、その母数の中から、より多くの人材を発掘し、継続的に送り出せる事に繋がれば、その結果として、頼りになる工学院大学校友会が出来上がり、初めて、学園と校友会はクルマの両輪であると言えると思うのです。

2つ目の校友の親睦提携をはかる目的ですが、その為に校友会は「新春の集い」を始め、3年に一度の全国区大会など、さまざまなイベントを催しています。

実は、校友の皆さんの8割がたの方が関東圏にお住まいで、校友会が東京の新宿でイベントをやりますと、皆さん近いし、お仲間が集まり易いし、大勢の皆さんが集まってくれます。所が

広島や札幌など遠方の皆さんは当然、東京の新宿はちょっと遠いぜ、となります。現在、日本の多くの県に支部があり、多くの方々のおかげで活動実績が積まれています。校友の皆さんの少ない支部が自分の所だけでイベントを計画しても、おのずとやれる事や規模が限定されます。逆に、東京支部など関東圏の大きな支部が横断的に近隣支部との合同イベントの開催など工夫しますと、沢山の皆さんが集まり、それだけ賑やかで大きな集まりになります。

この例からも分かりますように、これをどこにお住まいの方でも等しく行事に参加して楽しむ事が出来るようにするには、地方支部の活性化が大変重要なキーだと分かります。

あるアンケート調査によりますと、イベントや親睦会に行きたいと思う最大の条件は

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 会場が近い事 | 3 美味しいものを飲み食い出来る事 |
| 2 友人達も来る事が分かっている事 | 4 参加費が安い事 |

だそうで、スローガン風に言いますと“ちかい、ゆかい、うまい、やすい”なのです。これをイメージし易いようにまとめますと、

- ①各同窓会の催し物を校友会レベルにまで横断的に拡大する。
- ②地方の近隣支部のコラボによるイベント規模の大型化の推進。
- ③行きたくなる4つの要素を盛り込む。

となります。

これらがうまく軌道に乗りますと、多くの皆さんが親睦を図れると同時に、人材発掘の為には母数が多いほどよいと言いました事と見事にリンクするのです。

これらの展開はまだ具体的な施策として形になっている訳ではありませんが、常にそういう事を意識しながら、校友会の仕事をして行きたいと言う思いで語らせて頂きました。

これらの思いが校友の皆さまと議論しながら施策として形になりましたら幸いです。

最後になりましたが、皆さまのご健勝と益々のご活躍をお祈りして、わたくしの挨拶としたいと思います。

ありがとうございました。



各支部のイベント



新宿キャンパスにて

学園は新たな取り組みを スタートさせ魅力ある、 選ばれる学園を目指します。

学校法人 工学院大学
理事長 高田 貢
Mitugu Takada

21世紀に入り、我が国の社会構造が大きく変化し、とりわけ少子高齢化の進行などによる学校間の受験生獲得競争が激化するなど、私立学校経営は従来に比べて格段に難しい優勝劣敗時代を迎えております。しかしながら、このような厳しくなる環境下で時流に取り込まれずこの時代の潮目を乗り切るためには本学園の特色や優位性を活かした教育や成長戦略が欠かせません。そのための思い切った学園改革に取り組むことが急務となっております。

本年度は、その対応として「教育改革」、「ガバナンス改革」、「業務の合理化」の三つの重点施策に積極的に取り組みます。

その「教育改革」では、日本初となる「先進工学部」（生命化学科、応用化学科、環境化学科、応用物理学科、機械理工学科）を開設し授業を開始します。また、同時に情報学部、工学部の改組の検討や準備を進めてまいります。

また、附属中学・高校では「21世紀型教育」を附属中学校から開始します。これも日本初となる新コース（ハイブリッドインター、ハイブリッド特進、ハイブリッド特進理数）を開設し、ICTを駆使した未来志向の教育システムによる教育がスタートします。

これに伴い、八王子キャンパスの4号館と2号館・図書館の新耐震基準（政府の補助金を導入）による建て替えと、中学校の校舎の一部改装を実施し、教育改革のための設備の充実を図ります。なかでも図書館につきましては次世代型の先進的な図書館システムを取り入れ最先端の施設を目指します。

次に「ガバナンス改革」では、国の法令改正に伴う本学の学則の一部改正を学園のガバナンス体制を見直す好機ととらえ、内部諸規則の見直しを図り学園の将来を見据えた体制づくりを進めます。特に前期の職員人事制度改革に引き続き、今期は教員人事制度改革についても積極的に取り組まねばなりません。

また、「業務の合理化」は資産の有効活用を始め、体質改善のための無駄の排除や業務の合理化と簡素化を進め迅速な対応ができる事務管理体制を構築するなどにより、財務体質の更なる強化を図ってまいります。

本学園が社会から評価され受験生から選ばれる学園として生き残り発展するための学園改革に鋭意取り組んでおりますが、それに加え卒業生の学園に対するサポートや社会でのご活躍が学園のステータス向上に繋がり、学園の発展に大変寄与することになります。即ち、校友会と学園との関係は表裏一体です。どうか校友各位におかれましては母校に、より関心を持っていただき、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新たな学部体制の始動

工学院大学 学長 佐藤 光史
Mitsunobu Sato

卒業生の皆様には、健やかにご活躍のこととお慶び申し上げます。新年度より学長を仰せつかっておりますので、水野明哲前学長同様にご挨拶申し上げます。

さて、本学は改革を積極的に進めています。4月には日本初の先進工学部が立ち上がり、工学部、建築学部、情報学部からなる新たな4学部体制が始動しました。おかげ様をもちまして、各学部とも順調に新入生を迎えることができました。今後も高等教育機関として発展し続けるために、教育・研究・社会貢献の各面での改革を不断に実行し、社会にとって有意な人材を輩出して参ります。「無限の可能性が開花する学園」を目指す理念のもと、

学部生や大学院生が自らの成長に自信をもち、卒業後も充実した人生を継続できる力を確実に身に付けて、各人が望む自己実現ができる大学づくりにまい進いたします。

このような新たな学部体制を支えるキャンパス整備も進んでおります。八王子では、教育・研究用の工作機械を配置した「ものづくり支援センター」が稼働し始め、また講義室も備えた新4号館建設と共に、ラーニング・コモンズや図書館を擁する新2号館建設計画も進んでいます。新宿キャンパスでは、地下1階の大改装やセキュリティーの充実も格段に向上し、学生生活により快適で安全な環境づくりを展開しています。両キャンパスの発展ぶりをぜひご覧頂ければ幸いです。

産学情報交換会などを通して、多数の卒業生の皆様のご活躍ぶりに触れ、大変心強く感じております。皆様との情報共有も促進し、大学の発展に貢献する所存です。皆様におかれましては引き続きご活躍賜りますと共に、さまざまな場面でのご協力を賜りたくお願い申し上げます。



校友会の皆さまへ

工学院大学 附属中学校・高等学校 校長 平方 邦行

Kuniyuki Hirakata

校友会の皆さまには、日頃から工学院大学附属中学校・高等学校の教育活動に対し、深いご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。早いもので、私も八王子で3回目の春を迎えました。

一昨年の政権交代以来、政府〈文部科学省〉の教育改革は早いテンポで進んで行っているように見えますが、私立学校各校も急進展するグローバルゼーションに対応して独自に動き始めています。

人と社会のつながり方が大きく変わりIT化、多様化に伴って格差も広がりつつある中で、工学院大学附属中学校・高等学校は、この変化に対応するために、教育にイノベーションを起こしながら、生徒たちには予測できない急激な変化に立ち向かえる力を養うしかありません。やがて社会に旅立つ生徒たちを待ち受けているのは、「解なき社会」でありその中で存分に力を発揮できる若者を育成する責任が私たちにはあります。

1990年代の後半には海外の教育現場に大きな変化が見られ、今、20年近くが過ぎようとしています。私が2004年以降に訪れた欧米やアジアのインターナショナルスクールで目の当たりにした双方向授業。それはPIL (Peer Instruction Lecture) とPBL (Project Based Learning) でした。PILとは、1つの正解を求めるだけでなく講義に対話を導入する授業法のことで、PBLとは、具体的な課題を自ら設定し、その解決に向かって取り組む問題解決型学習法のことで、ご承知の通りです。

2015年4月より、工学院大学附属中学校・高等学校では、21世紀型の教育をスムーズに展開するために、中学で新しい3つのコース(クラス)による教育がスタートしました。既に在校生の授業にもアクティブラーニングであるPIL・PBLの授業を取り入れ、単なる講義形式の一方通行型の授業から双方向型の授業に果敢に挑戦しています。つまり、中1の3つのコース(クラス)だけでなく工学院教育全体が教育イノベーションによって大きく変わろうとしているのです。

工学院の21世紀型教育のキーワードは「G〈グローバル〉」「I〈イノベーション〉」「L〈リベラルアーツ〉」「英語の運用力」「ICTの活用力」であり、学校教育の柱である授業はPIL・PBL・ICTにより単に教師が答えを教える、あるいは知識を理解させることに終始するものではなくなります。ICTというツールを活用することで協働学習の内容を生徒と教師がリアルタイムで共有できるようになったり、表現の方法が豊かになるのです。そして、生徒はプレゼンテーションに対するハードルも低くなります。

次期学習指導要領には、議論を組み込んだアクティブラーニング型の授業を義務づけ、その指導方法まで明記することになっています。文部科学省が認定したSGH・SGUそしてIB200校計画の実行は、本気で教育改革を行おうとしている姿勢であると思いますし、その象徴的なのが「大学入試制度改革」や「英語教育の改革」であるでしょう。センター試験は発展的解消され、新テスト導入と同時に、1点刻みの学力選抜試験を止めると言っていますので、探求や思考のプロセスを評価するということになります。また、英語は4技能(話す・聞く・読む・書く)を求める授業になり、新テストは4技能を測定する内容に変わります。この改革が実現すれば日本の教育は大転換し、「受験があるから勉強する」という学びの構造も崩壊する可能性があります。

現在のスケジュールからすると、2015年の中学1年生が大学受験の時に適用されることになっています。



第2回社員総会（第59回総会）報告

総務部長 志村 豊

5月の最終日曜日(平成26年5月26日)、新宿校舎3階のアーバンテックホールに於いて、一般社団法人に移行して2回目の社員総会が開催されました。会場にはBGMで校歌と学園歌が流れ、学生時代を懐かしく思い出させる演出が醸し出されておりました。

総会は、長嶋会長の挨拶の後、平成25年度事業報告と決算書が承認され、平成26年度予算報告が行われました。その後、10月18日開催の第17回全国大会埼玉大会のPRに続いて、同窓会毎に各会場に分かれて同窓会報告会兼意見交換会が開催されました。

表彰式では、多数の学園関係者の御臨席を賜り、大学院、大学、高等学校、中学校の優秀学生・生徒25名の表彰が行われました。

高田理事長からの来賓挨拶、長澤副学長と枚方校長からは学園近況を報告して頂きました。

その後、7階の学生食堂で懇親会を行いました。来賓挨拶は後藤常務理事にして頂きました。

翌日の支部長会に出席する全国の支部長の皆様も大勢集まり、賑やかな雰囲気での懇親会となりました。



懇親会 7階学生食堂



社員総会 3階アーバンテックホール



集合写真

第3回 定時社員総会のご案内

第3回定時社員総会は、平成27年5月31日(日)に行われます。

10:30～	受付	(3階 アーバンテックホール)
11:00～	第3回定時社員総会	(3階 アーバンテックホール)
12:40～	各同窓会報告会	(同窓会別会場)
14:00～	校友会キックオフミーティング	(3階 アーバンテックホール)
16:40～	表彰式	(3階 アーバンテックホール)
18:00～	懇親会	(7階 学生食堂)

全国支部長会が定時社員総会の翌日6月1日(月)に予定されており、懇親会は支部長会の懇親会も兼ねていますので、多くの支部役員に会えることが期待できます。

総会の議題案は以下の通りです。

- ① 平成26年度事業報告と決算案の承認
- ② 定款の一部改訂案の承認
- ③ 平成27年度事業計画と予算の報告

「新春の集い 2015」開催報告



景品抽選会での抽選バルーン

恒例の「新春の集い」を2015年1月11日(日)12時30分から新宿校舎の1階アトリウムで開催しました。408名の参加者をお招きできたことは、各同窓会の皆様のご尽力のお陰だと思います。心より感謝申し上げます。

新春の宴の司会進行は、同窓会組織部員で専門学校同窓会の平山徹夫さん、高校同窓会OGの深瀬友里加さん、そして専門学校同窓会の櫻井良尚さんの3人体制で始まりました。

まず、同窓会組織部小澤部長の「全員参加で楽し

い新春の集いにしましょう！」という「開会の辞」でスタートし、グリークラブOBによる「校歌」斉唱、参加者全員による「学園歌」と続きました。長嶋秀世校友会会長のご挨拶のあと、学校法人工学院大学理事長の高田貢様からご祝辞を頂戴しました。そして新春恒例の鏡開きを、大学後援会会長の宮木義雄様と御来賓の方々と学園関係者で「よいしょ！」と決め、水野明哲学長の乾杯のご発声により歓談がスタートしました。

祝宴に入ると、樹輪の会による民謡、本学マジ



シャン・ソサエティOBの渡部寛厚氏によるマジックショー、昨年に続くソーラーカーの大会優勝報告がありました。さらに会場を盛り上げたのは、華麗な衣装を纏った3人のダンサーによるベリーダンスでした。舞台狭しと踊り始めた彼女たちの勢いに乗り、司会者が「レッツベリーダンス!」と声を掛けると、多くの人が踊りました。

景品抽選会ではバルーンドロップを用意しました。前日、450個の風船に抽選券を入れて膨らまし、

アトリウムの10

メートル上空に張ったネットに風船を設置しておきました。当日、ファンファーレと共に色とりどりの風船が宙に舞うと、各自が一斉につかんで爪楊枝を立て、パン！パン！と景気の良い音が会場を包み込みました。幸運な皆様に豪華なプレゼントが配られた後、同窓会組織部の太田正利副部長が中締めを行い、新春の集いは幕を閉じました。

今年はマジックショーやベリーダンス、そしてバルーンドロップによる抽選会など、初めての試みに工夫をこらしました。風船を割って抽選券が飛び散るハプニングもありましたが、概ね成功したと思います。当日のスナップ写真を校友会事務局のアルバムに整理しました。校友会ホームページから閲覧できますので、是非ご利用ください。

同窓会組織部 小澤 和重

平成26年度 全国支部長会 報告

支部組織部副部長 渡辺 征三

平成26年度全国支部長会議は、第2回社員総会の翌日5月26日(月)に新宿校舎28階会議室(第1・第2)で行われました。支部組織部白井精滋氏の司会により、全国41支部中、出席38支部、欠席3支部(委任状有)を確認し、次いで新支部長である、奈良県支部長 磯三男氏、和歌山県支部長 南部高史氏の紹介及び挨拶が行われた。

長嶋校友会会長から「一般社団法人に移行後1年となり、昨日の総会および過去最高の参加者を記録した新春の集い等、執行部や会員のご努力により、校友会もかなり活性化してきた。また、支部においても気楽に参加できるゴルフ、見学会、ハイキングなど地元で行って活性化を図って欲しい。さらに、今年から実施する“支部活動指数”導入を大いに活かしていただきたい」旨挨拶があった。

谷政美議長より議事の説明がなされ、質疑が行われた。

- (1)「支部運営規則」の見直し……移行後1年を経て、各支部の意見をもとに各支部共通に使える運用規則とした。支部固有の運用については、支部細則を定めて頂きたい。従来 of 支部ごとの支部規則は不要とした。
- (2)「支部活動指数」導入について……平成26年度原資：200万円。毎年6月末までに各支部より活動報告書を提出願ひ、指数計算結果に基づき、7月に配分予定。

上記2点に対し、出されたご意見を念頭に置きながら、遂行することで了解された。

その他報告

- 1) 第17回全国大会・埼玉大会について黒澤実行委員長から支部参加者増の要請がなされた。
- 2) 伝達事項……校友会HPリニューアルと支部のHP活用について、広報部 常磐副部長より説明を受けた。これによって、情報伝達、交換に活かして欲しい。

自由討議

- ・ 学園、後援会、校友会の三位一体強化のため、各地で開催される大学父母懇談会に当該支部より参加するに当たって、人選、話す内容等事前に連絡があればありがたい。⇒ 回答：今後配慮する。
- ・ 富岡製糸場世界遺産登録に地元の校友(教職経験者)が尽力した。他にも全国に沢山の校友教職員がおられるので、ネットワークの構築と活用を図って欲しい。……学園連携部テーマ。

最後に支部組織部長より次の2点が確認された。

- 1) 今回、初めて総会と全国支部長会を同時期に開催したが、殆どの支部長から賛同の意思表示あり。来年以降の開催について参考とする。
- 2) 任期満了の支部役員は、継続可能な人は、特別な手続きなしに、そのまま継続となるが、来年3月31日で満75歳を迎える役員は、出来るだけ早く後継者を見つけて支障がないようにご準備いただきたい。終了後、会場を中層棟ファカリティクラブに移し懇親会を行いました。皆さんそれぞれ、日常の支部活動の情報交換などで対話の輪が広がり、和気あいあいの語らいの場となりました。



「第17回 全国大会・埼玉大会」盛会裏に閉幕

第17回全国大会・埼玉大会実行委員会 埼玉西支部 福田忠彦

校友会全国大会・埼玉大会は、平成26年10月18日(土)新宿キャンパスで総勢400人を超す参加者で、プロローグ・記念式典・パーティ・川越祭り見学会、翌19日(日)には埼玉名所めぐり・スカイツリー見学のツアーが行われいづれも成功裡に終了いたしました。

この度の大会は、平成20年開催の沖縄大会でバトンを受け継いだ埼玉中央支部・埼玉西支部が共同で平成21年4月から実行委員会を立ち上げ、準備を行いました。しかし、実行年でありました平成23年3月11日「東日本大震災」が発生し、案内状発送直前だった大会を延期する事になりました。

未曾有の大災害であり、被災地在住の校友の心中を察し、ある程度の復興期間をおいてという事にして3年後、即ち平成26年度開催という事に理事会で決定されました。

担当両支部の盛り上がった気運をいかに保持するかが課題でありましたが、本部・支部組織部の強力な支援を頂き、新たにプロローグの開催などを盛り込んで準備を進めました。

3年に一度しかない全国校友の集う祭典、今回は久々の首都圏開催であったこと、しかも6年の時を経ての大会であったことで、いかに校友の皆様の魅力のある大会であるかをお伝えするかが、最も苦心をしたところです。首都圏開催の課題は、埼玉県内で500人も収容できる会場やホテルは数が限られ、予約の難しさもさる事ながら会費の設定も困難な課題でした。一人でも多くの校友にご参加頂くために会費を絞り込み、新宿キャンパスでの実施に踏み切りましたが、「埼玉大会なのになんで新宿なんだ」との声は多く、その度に実行委員会のメンバーは説明に追われました。そのような中での開催ではありましたが、お陰さまで事故もなく成功裡に終了出来たこと、又多くのご芳志や広告掲載を頂いたことは、校友の深いご理解とご協力の賜物と改めて感謝申し上げます。

次は3年後、北海道支部の皆様が引き継いでくれます。埼玉大会に頂きました“校友の暖かく強い絆”を北海道大会でも宜しくお願いたします。



記念パーティの会場風景



夜の川越まつり(佐藤敏勝さん写真提供)



スカイツリー



行田市郷土博物館ツアーの様子

「アメリカ ハイブリッド留学」がスタート

5月30日、「アメリカ ハイブリッド留学」がスタート。学部生40名、建築学専攻大学院生5名が、本学協定校「North Seattle College (州立大学)」のあるシアトルへ飛び立ちました。「ハイブリッド留学」は、授業は日本語、日常生活で英語に触れるという本学オリジナルの新しい留学スタイル。英語のレベルを問わず「まず海外へ渡る」ことを重視し、国際感覚や英語力を養うことが目的です。およそ70日間の滞在を終え、留学生活をとおして、日々の生活で語学力を鍛え確かな国際感覚を身につけ帰国した学生たちは一段とたくましく成長しました。



“科学技術イノベーション”を実現できる 人材育成を目指す「先進工学部」の開設を発表

数多くの技術者を社会へ送り出してきた本学では、さらなる人材育成を目指し2015年4月に「先進工学部」を開設することを発表しました。

先進工学部は「生命化学科」「応用化学科」「環境化学科」「応用物理学科」「機械理工学科」の5学科で構成し、大学院進学を見据えたハイレベルな実験・研究を展開します。基幹的な自然科学の基礎を確実に身に付け、それらを融合して高度な科学技術を創造できる力の習得をめざし、国際化に対応した“クォーター制”を導入し、本学独自の“ハイブリッド留学”を展開します。国際的な教養や創造性、工学技術を柔軟に組み合わせ、新しい

技術を社会に普及する、“科学技術イノベーション”を実現できる研究者・技術者を育成していきます。



学園

TOPICS

3

工学院大学附属中学校が21世紀型一貫教育をスタート 日本初となるハイブリッドインタークラスの開設を発表

工学院大学附属中学校は、2015年4月より併設型中高一貫校として21世紀型教育（「グローバル」「イノベーション」「リベラルアーツ」「英語の運用力」「ICTの活用力」）を推進する教育機関として新たにスタートを切ります。

未来の世界を創造する生徒のために、高い目標を実現する3つのコース[ハイブリッドインタークラス][ハイブリッド特進クラス][ハイブリッド特進理数クラス]の開設を発表。ハイブリッドインタークラスでは、理・数・英の3教科でオールイングリッシュの授業を実施します。将来的には海外大学への進学を視野に入れており、学内外より大きな期待が寄せられています。



学園

TOPICS

4

工学院大学の社会貢献活動を高く評価 矢ヶ崎教授が「文部科学大臣賞」受賞！

工学院大学の科学教育・研究活動に関わるノウハウを活用すべく生まれた「科学教育センター」。科学振興を目指し、中・高大院連携事業や「科学教室」を始めとする地域貢献事業、スーパーサイエンティストチャー養成講座などの科学教育振興事業を展開してきました。

これらの科学教育活動が評価され、システムの構築を主導し活動を推進してきた矢ヶ崎隆義教授（工学部 環境エネルギー化学科）が、関東工学教育協会より業績賞を、公益社団法人日本工学教育協会より「工学教育賞（文部科学大臣賞）」を受賞しました。



ソーラーカープロジェクトが 「World Green Challenge 2014」で総合優勝



工学院大学ソーラーカープロジェクトは、World Green Challenge 2014（秋田県大潟村、2014年8月9～12日開催）のソーラーカー部門「チャレンジャークラス」に出場し、第1位に入賞、ソーラーカー部門チャンピオンになり「総合優勝」と「クラス優勝」の2冠を制覇、さらに「技術賞」「大潟村長賞 大潟村創立50周年」を受賞しました。

レースは1周25kmのコースを3日間で計24時間走り、総走行距離を競います。今年度は台風11号の影響を受け、10日(初日)と11日(2日目)のレースは行わず、大会最終日となる12日のみの開催で8～16時までの8時間の耐久レースとなりました。

本学はスタートから順調に走行を続け、午前中には2

位以下に25 km(約1周)のを差つけファーストポジションに。正午からは台風の影響で雲り空と強風の中、往路と復路の走行に強弱をつけるなど、戦略的にも充実し、そのまま2位以下を大きく引き離して1位でゴールしました。

ソーラーカープロジェクトは、36名の機械系・化学系・電気系・建築系の横断的な学科の学生で参加しました。現地ではレースへの出場のみならず、コースコンディション整備にも全面的に協力するなどレース開催の後押しをしました。

また、今回のレースに臨んだ全6日間の行程においてキャンプでの自炊生活を実践し、2015年10月に開催される世界大会を想定したチームづくりを行いながら勝利を収めました。



学園

TOPICS

6

子供たちに科学の楽しさを教える 日本最大級のイベント「科学教室」を開催

8月23日・24日、八王子キャンパスで第21回「工学院大学 わくわくサイエンス祭 科学教室」が開催されました。「赤と青を混ぜると何色になる?」「雷はなぜ夏に多く起きる?」など身近な疑問を解決し、科学の面白さを伝えるイベントで、今年は小学生から高校生まで8,520

人が来場しました。82の演示テーマが用意され、先生後は附属中高生、大学生、大学院生に加え、教育連携協定を結んだ中学・高等学校の生徒たち。子ども達は興味あるテーマを次々に体験し、「科学」への探究心を深めました。



学園

TOPICS

7

興味津々! 子どもから大人まで多数来場 「エコプロダクツ2014」に 6年連続参加

12月11日～13日、東京ビッグサイトで開催された日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2014」。本学は、環境ISO学生委員会、環境マネジメント工学研究室(環境エネルギー化学科 稲葉 敦教授)、ソーラーカープロジェクト、附属中学校高等学校が参加しました。ミツバ

チプロジェクトのコーナーでは、ハチミツつきの巣箱や蜜蝋を採るオリジナル装置を展示。学生達による環境を守る活動の説明に熱心に耳を傾ける方々や、クイズを通してLCA(ライフサイクルアセスメント:商品等の環境影響評価)について学ぶ子ども達でブースは賑わいました。



学園

TOPICS

8

工学院大学附属高校生徒有志が世代を超えた記憶を伝承 「東京五輪アーカイブ 1964-2020」に参画

工学院大学附属高等学校の生徒有志が、首都大学東京の渡邊英徳准教授と朝日新聞フォトアーカイブが中心となって進めているプロジェクト「東京五輪アーカイブ 1964-2020」に参画しました。

このプロジェクトは1964年に開催された東京オリンピックにまつわる証言や写真の資料をデジタル保存し、インターネット上に公開することで、過去の記憶を伝え、その魂を後世へと受け継ぐことを目的としたものです。

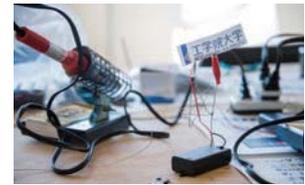
最初の活動として、川淵三郎氏(現公立大学法人首都大学東京理事長、東京オリンピックにサッカー選手として出場)、川口衛氏(株式会社川口衛構造設計事務所主宰、国立代々木競技場構造設計に参画)にインタビューしました。

今後も長期に渡り活動していきます。



学園
TOPICS
9

5度目の開催！ 長野県諏訪市出張科学教室に 2,482名が来場



10月19日、長野県諏訪市で「出張科学教室」を開催しました。会場となった同市諏訪中学校には、2,482名が来場し、子供たちの熱気と笑顔に溢れていました。共に科学振興に力を注いできた諏訪市と本学との相互連携により「地域の科学イベント」として定着してきた5年目の今年は、本学から約240名の学生が運営スタッフとして参加しました。

加えて、今年は地元企業からの協力出展や諏訪清陵高校化学部の出展を含め、過去最高となる25もの演示テーマが用意されました。



学園
TOPICS
10

卒業生と学生の出会いもある。 母校に帰ろう「ホームカミングデー」開催

11月1日、新宿キャンパスで「ホームカミングデー」を開催しました。「会いたい人に会える」をコンセプトとした恒例イベントですが、今回は20代のOB・OGの来場も多く、現役の学生を含め約400名が参加。根岸 英一本学名誉博士(2010年ノーベル化学賞受賞)による特別講演が行われ、懇親会では「心のプラカード 工学院大学 Ver.」を放映するなど、大盛況のうちに幕を閉じました。



動画は

心のプラカード 工学院大学 検索

で見ることができます。

学園

TOPICS

11

イノベーションに対する人材育成をめざす「先進工学部」 来年度の開設を 記念してパネル討論会を開催

「先進工学部」の開設を記念して11月2日、「無限の可能性を開花するイノベーションのために～先進工学が貢献する未来～」と題しパネル討論会を行いました。根岸 英一本学名誉博士（2010年ノーベル化学賞受賞）をメインとして6名のパネリストが登場。イノベーションとは何か、大学と企業が地域からイノベーションを生むには何が必要かを討論しました。



【パネリスト】

根岸 英一氏（2010年ノーベル化学賞受賞／
工学院大学名誉博士・Purdue 大学特別教授）

友野 宏氏（新日鐵住金 代表取締役副会長）
山口 栄一氏（京都大学 教授）
山本 佳世子氏（日刊工業新聞社 論説委員）

水野 明哲（工学院大学 学長）

佐藤 光史

（工学院大学 先進工学部応用物理学教授就任予定）

学園

TOPICS

12

世界水準の成果を生み出す環境へ！ 八王子キャンパス再開発プロジェクト始動

八王子キャンパスは、125周年記念事業の一環としてまとめられたマスタープランにもとづき、再開発が進行中。

時代の変化に応じた施設のリニューアルとキャンパス整備により、教育環境・研究環境のさらなる向上をめざし、キャンパスは今、大きく変わろうとしています。

■**キャンパスをブランディングするクロスラインの誕生**
キャンパスを東西に走る「センターモール」を整備し、南北に貫く並木道とのクロスラインを完成させることで、景観上も動線上も美しく求心力のあるキャンパスのコア・エリアを生み出します。その一角に位置する「総合教育棟」（2012年度竣工）は教育の拠点として、また前面に広がる広場「キャンパス・コム」は学生のイベント活動や憩いの場として、キャンパス・ライフの中心的役割を担っています。

■**ものづくりの新たな拠点**

「ふらっと／19号館」がまもなく竣工！

この3月には旧1号館跡地に大型施設「ふらっと／19号館」が竣工。機械工作実習を中心に、授業および課外活動において学生の「ものづくり」を支援する拠点となる場所です。建物は、柱のない広大な実習スペースを擁し、敷地の高低差を活かし半分が地下に埋まった斬新な形で、屋上部分がキャンパス東西を結ぶ通路を兼ね、センターモールの一部を構成します。コンクリート打ち放しの外観と庇の水平ラインが効いたシャープなデザインは、八王子キャンパスの新名所になります。

■**続いて「新4号館」、「新2号館」を建設**

—— 進化するキャンパス

「新4号館」（2015年度末竣工予定）には、新設学部となる先進工学部の教育・研究拠点として実験室や研究室、講義室などが設置されます。「新2号館」（2016年度末竣工予定）は、

隣接する附属中高をつなぐ“シンボル”として、また、図書館を内部に配し情報教育や学習サポート機能を取り込んだ学生の主体的な学びの場「ラーニング・コムズ」を中心とした教育施設として、機能していきます。

併せて、今後拡充予定の情報学部の教育・研究の拠点として活用していきます。



愛称を学内公募で決定した
「ふらっと／19号館」



ふりだし会

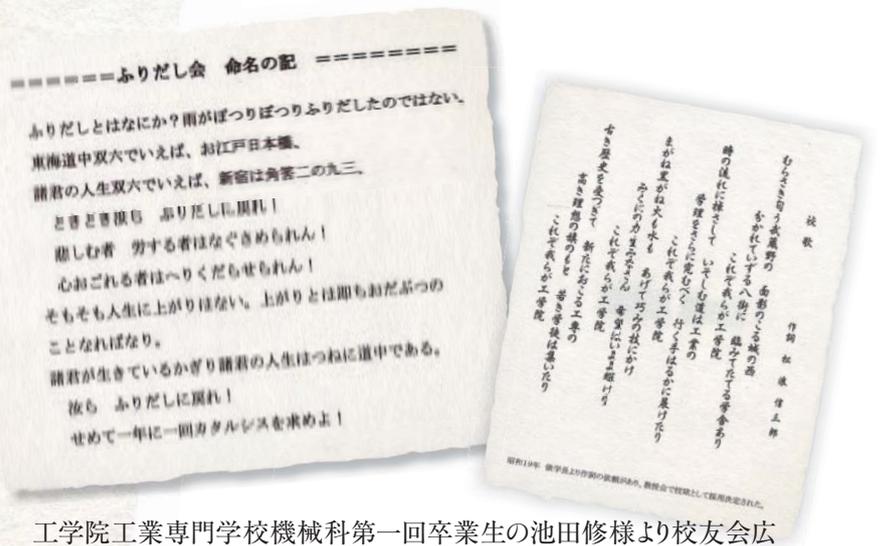
工学院工業専門学校
機械科第一回卒業生の会

1944年昭和19年5月1日工学院工業専門学校に第一回生として入学式に参列し、私達の学生生活が始まりました。

機械科60名と化学科60名の2科のみの工専校の出発で、もう米軍の東京空襲が始まる緊張の時代でした。

教科書やノートを持って授業に通学するよりも、勤労働員、教練実習、空襲避難のウェイトが増始め、昭和20年5月の空襲で学校の本館は焼失しまい、学生も入営、入団、軍各種学校入学の様相を呈し、ついに8月15日の終戦にいたりました。

(「ふりだし会60年の歩み」より)



工学院工業専門学校機械科第一回卒業生の池田修様より校友会広報部にご連絡を頂いたのは、平成26年5月末のことでした。その後、新宿校舎28階校友会談話室で初めてお目にかかれたのは、夏の陽が照りつける7月になってからでした。この日は朝から晴天で大変暑く、気温の高い午後待ち合わせした事を悔みながら、私より卒業が一期上の櫻井さんと二人でご到着をお待ちしていました。

談話室においでになられた時のご様子は、ご高齢のせいか足は少しご不自由のようでしたが、お顔色も大変よく先月まで体調を崩しておられたとは思えないほど元気に、「ふりだし会」の事をはじめ、在学中の事や卒業後の同窓生のお話などをお聞かせ頂きました。

そもそも工学院工業専門学校をご存知の方はどれだけいらっしゃるでしょうか？学園の沿革によれば、1888年(明治21年) 工手学校設立から50有余年が経った1944年(昭和19年)に、専門学校令により開校してから1949年(昭和24年)の新学制により工学院大学と認可されるまでの僅か5年間のみ開設されていたようです。

昭和19年という戦時下に於ける学園生活のご苦労は、今では想像もつかないもので、4月に入学してから夏休みまでは充実した授業が行なわれたが、1学期が終わる7月頃には東京空襲に備えて間引き疎開が始まり、勤労働員も始まったそうです。そして10月には理工科学生の徴兵猶予も廃止され一億総動員になり、11月には富士の裾野まで軍事演習に行ったそうです。

翌年本土爆撃が激しくなった2月には学徒動員令により機械科全員が名古屋の神戸製鋼所で兵器の生産に従事する事になり、人手不足の工場では早々に大型機械を一人で操作する事を求められ大変良い経験になったそうですが、日ごと空襲が激しくなり、市内全焼と名古屋城焼失も目の当たりにしたそうです。

そして昭和20年8月に終戦を迎え、秋には入隊していた生徒達が学校に戻り出し、9月18日に授業が再開されたとの事です。

(在籍確認者:46名 台湾・韓国:4名 不明者:10名 計:60名)



60周年会誌編集幹事会
工学院大学職員会議室にて

40周年会誌編集幹事会
工学院大学職員会議室にて



富士裾野における軍事演習にて



工学院工業専門学校の校歌は、現在の校歌とは異なり、昭和19年11月頃に侯国一学長が松浪信三郎先生に歌詞を依頼されたものでした。しかし、戦時変動期でもありいつしか忘れ去られてしまい、今では誰も歌うことがない校歌になっていると話されていました (P.24 参照)。

この激動の時代を共にした工学院工業専門学校第一回卒業生の会を『ふりだし会』と命名されたそうです (P.24 ふりだし会命名の記参照)。

『ふりだし会』では、これまでの70年間に30年史、40年史、60年史と会員の歩みを回想する会誌を独自に発行

してきましたが70年を区切りに『ふりだし会』を閉会し、昨年70年史をもって会誌も終刊としたそうです。

この70年に及ぶ『ふりだし会』の存在を皆様知って頂き、現在の校友会も長きにわたり校友の役に立つ活動を続けて頂けたらと思ってお紹介させて頂きました。

最後に、これからも『ふりだし会』の皆様が友情を暖め合い末永くお元気でおられることを心よりお祈り申し上げます。
(広報部：丸茂 聡)



工学院大学旧校舎



上：工学院大学旧校舎
右：初回学園祭後の記念撮影
(昭和21年10月正門玄関前)

ふりだし会 70年の足跡



《各分野で日本復興の第一線に立ち
ご活躍された第一期卒業生のみなさま》

平田成氏：日本で初めての超高層ビル『霞ヶ関ビル』建設に於いて超高層ビル建築の飛躍的工法(ヒルクライミングタワークレーン)を考案し、科学技術長官賞を受賞。

大柳康氏：工学院大学名誉教授「エンジニアリングプラスチック—その特性と成形加工」をはじめ数々の機械工学系著書を監修。

東野彰氏：松下電器KK傘下の会社専務として、家庭電化製品の製造普及を指揮。

谷克夫氏：卒後慶大経済学部に進学し、アメリカ系銀行に入社して日本復興資金の調達に活躍。

池田修氏：理化学研究所を経て医療器具近代化の研究開発に専任し、その成果は現在も医療に重用されている。

以上の諸氏は、ふりだし会初回より幹事を務め、会誌発行に努力した方々です。

その他、ここではご紹介ができない戦後復興の礎を築いた数多くの先輩方に敬意を表します。



校友会談話室にて、左から櫻井良尚氏、池田修様、丸茂聡

『ブンセン』は兵庫県南西部、播磨平野の一角に位置します。清流・揖保川に抱かれた淡口醤油発祥の地「たつの市」に、昭和9年、醤油醸造業『株式会社 鳳商店』として産声を上げました。鳳商店は同族会社でしたが、当時では珍しい株式会社としたのは、個人会社ではないので経理をはっきりとさせ公平公正を期すとの考えからでした。この考えが、会社の根本方針にも反映され、ガラス張り経営の基となっています。

現社名は、古銭・寛永通宝の裏に「文」の文字が入ったものが「文銭」と称されて、ゲンが良いと言われていたことに由来します。このため、創業当初よりトレードマークとして使用しています。



会社のマークに採用した文銭



当社の基礎は、創業者・大西^{だいせい}大三が50年かけて築きました。

大西の経営哲学である「平時は損得、非常時は道理」、つまり決断を行う際の心得として、平常の業務では経営原則に基づいた損得勘定を尺度として判断して

よいが、いざという時には必ず損得を離れて物事の本質に立ち戻って考える…、これは私の人生観を変え、今でも私を支えてくれています。大西は根本方針の基になる地域社会の人々のために、そして世の人々のために最高の品を提供して喜んでいただき、利益のみを追求しないとの方針を貫きました。

戦後、大西は、醤油は装置産業になるから、当社のような小企業にとっては将来は難しいと判断して、醤油専業から醤油を使った佃煮などの加工食品も手がけるようになりました。これが当社にとってのターニングポイントだったと思います。

昭和22年昆布つくだ煮の製造を開始、その後海苔つくだ煮、塩ふき昆布と商品の幅を広げていきました。当時のつくだ煮は、量り売りが通常で、商品名は一般名称でした。競合の多いつくだ煮業界で、消費者に当社製品を認知していただくために、ユニークなネーミングを次々と付けていきました。

ちょうどこの時期に包装容器に一大革命が起こり、量り売りから、ポリエチレン袋詰めの小容量の商品に代わり始め、消費者の目に直接商品が触れるようになり、商品名も次第に認知されるようになりました。

こうして昭和36年発売の細切り塩ふき昆布『塩っぺ』が大変好評を頂き、続いて同年発売の今までにない惣菜風海苔つくだ煮『アラ!』も感嘆符を商品名につ

同窓生
だより

①

ユニークなネーミングの商品を作り続けて——

“ 平時は損得、
非常時は道理 ”

田中瑞樹
Mizuki Tanaka

ブンセン株式会社
代表取締役会長

昭和39年3月 工学院大学機械工学科卒業
昭和39年4月 株式会社国栄機械製作所
(現・グローリー株式会社)入社
昭和50年9月 ブンセン株式会社入社
昭和52年8月 取締役役に就任
昭和54年8月 代表取締役副社長に就任
昭和57年8月 代表取締役社長に就任
平成26年8月 代表取締役会長に就任





おいしいが喜び
各 **ブンセン**

各 **ブンセン商品のユニークなネーミング**



(左上から)

- 1 しいたけ入り昆布つくだ煮
- 2 海苔つくだ煮 3 煮豆 4 しょう油
- 5 塩ふき昆布 6 もろみ(菜もろみ)
- 7 山椒の実のつくだ煮
- 8 しその実入り昆布つくだ煮

ブンセン商品の塩ふき昆布「塩っぺ」と海苔つくだ煮「アラ!」など



けた新鮮さも買われて、人々の目に留まり見事なヒット商品に成長しました。しかし、発売当時は、しばしば取引先様からふざけていると叱られることもありました。

ブンセンブランド強化のため、社名を昭和36年に『ブンセンしょうゆ株式会社』としましたが、その後もつくだ煮類の比率がさらに高まったので、昭和45年に“しょうゆ”を取り現在の社名『ブンセン株式会社』に改称しました。また、47年に進物部門の子会社『株式会社茶良さろん』を設立し、百貨店にも販路を広げました。

昭和50年代になると、惣菜や米飯、生菓子などの日配商品部門の子会社『ワンデー食品(株)』『ヌーボー食品(株)』



日本で初めてプラスチック容器詰めで発売した醤油と当初の「塩っぺ」

『ニギー食品(株)』『ペラボーのお菓子(株)』を次々と展開しました。この部門は佃煮のように日持ちしない商品なので、消費地に近いところに立地する必要から福岡工場、東海工場を建設し、スーパー、コンビニなどに供給しています。

仕事柄、女性の細やかな作業が必要なため、創業当初から多くの女性が活躍しています。そのために女性社員が働きやすいように企業内保育所『ちびっこ園』を昭和44年に開設しました。私の息子もここで大きくなり、現在は当社で活躍?しています。

現在、つくだ煮の保存技術と総菜の調理ノウハウを融合させた、LL(ロングライフ)惣菜が成長株です。これは、低温殺菌で素材の持ち味を生かしつつ、10℃以下の要冷蔵で流通・販売することにより、1~2か月の賞味期限を可能にした商品です。また、「嚙下性に優れたおはぎ」や「じゃが芋コロッケにそっくりなおからコロッケ」など自社開発の特許登録商品も育成中です。

今後も、優れた人材を育て地域社会の役に立つ企業としてユニークな商品作りを続けていきたいと思ひます。

同窓生

だより

2

建築
工事例

私の仕事歴

思えば 苦手なことばかり

卒業生、在校生の皆さん、私は1981年の化学工学科木村研究室を卒業しました町田祐一と申します。

現在は、コニカミノルタエンジニアリング株式会社の代表取締役社長を仰せつかっております。弊社は、もともと小西六写真工業株式会社の工機部門が1971年にエンジニアリングサービス会社として設立されたものです。皆様には、さくらカラーやコニカカメラといった方が分かり易いかもかもしれません。業態としては、建設業13種の許可を持っており、コニカミノルタグループの建物、ユーティリティーの維持管理や改造、新規設立などを行うとともに、社外のお客様にも広くサービス提供をいたしております。従業員は約200名で関東、東海、関西に拠点を持ち、年商は100億円程度です。特色としては、建設業許可13種を基盤にお客様のご要望にワンストップでお応えできることに加えて、写真産業の基盤技術ともいえる精密加工技術、配管設計、反応装置、危険物劇物取扱施設、排水処理設備などの設計施工が強みとして挙げられます。また、コニカミノルタの照明分野への発展に合わせて、ライトアップやイルミネーションなどの技術力も強化しております。

私とはといえば、1981年に工学院大学を卒業してから小田原工場生産技術部に配属となり、印画紙、印刷感材などの包装設計担当で社会人をスタートいたしました。間もなく、小田原工場の仕事をしつつ、中国、ドイツ、スイス、インド、カナダ、アメリカの顧客指導も行うこととなり、自分のもつ

施工設備
事例



施工設備
事例

雪の日も
やります！

早朝工事開始前
全員参加！



現場統括安全責任者の朝礼



町田 祐一

Yuichi Machida

1981年 3月 工学院大学化学工学科卒業
 同年 4月 小西六写真工業入社(現コニカミノルタ)
 1988年 4月 アメリカ工場建設参加
 1998年 12月 ベトナムMFG社長就任
 2004年 6月 KMエンジニアリング取締役
 2012年 コニカミノルタ物流社長
 2014年 6月 現コニカミノルタエンジニアリング社長

とも苦手だった英語を使わざるを得ない状況となりました。辞書を片手にIBMのタイプライターで、怪しげな英文をぼつぼつと打ったのを思い出します。PCも携帯電話も無い頃ですね。その後、アメリカの工場建設やベトナム新工場の設計を担当したり、その流れでベトナムに一人駐在で社長まですることになったりと大変でした。けれども、海外の従業員や近隣日系企業の社長との交流など大変思い出深い、楽しい経験でもありました。

このころから、写真はフィルムからデジタルカメラに急速に移行し、我が社の写真事業も撤退との決定がなされました。ベトナムの会社清算にあたり従業員全員の再就職支援など、思えば「Open & Honest」=コニカミノルタマインドともいうべき対応の日々でしたが、私の帰国の日にすでに退職したベトナム人まで集まって、送別会を催してくれたのには感動いたしました。

帰国してからは、現在のコニカミノルタエンジニアリングにお世話になるのですが、しばらくしてコニカミノ

98年頃

ベトナム駐在の時代



ルタ物流へ社長として出向することになりました。当時から日本国内での生産活動は減少しており、これに伴って物流量も以前の写真産業の時とはけた違いに減少していました。結果的に物流事業として譲渡することになるのですが、その経過においては大変悩みましたし、何が従業員の為かなど取締役会でも議論しました。

約一年で対応も終わり、現職に就くのですが「ずいぶんと苦手なことばかりやってきたなあ」という気がいたします。英語は苦手、初対面の方も苦手、生来優柔不断なのにイエス・ノーははっきりとしなくてはいけないなど苦手の連続でしたが、従業員や友人やお客様に助けられて乗り越えられた気が改めていたします。

60歳まであと3年、若手との宴会では「あのな、仕事は苦手なもんばかり来るからそこが、がんばりどころだよ」などと言っておりますが分かってもらえているのでしょうか。

実は、世の中には「私は好きなことしかやってこなかった!」という方もいます。それはそれで大変幸せなことだと思いますが、そう出来た環境があるという事自体、非常にラッキーな出来事ではないかと思います。

卒業生、在校生の皆様のご努力が必ずや実を結ぶことを信じ、本文を終わります。

今後ともよろしくお願いいたします。

コニカミノルタ陸上部の寮も建設しました!



コニカミノルタ陸上部
頑張ってます!



キャリアデザイン

同窓生
だより

3

1985年卒業の遠藤と申します。この度、母校の校友会報に寄稿することになりました。私は本業のSEの傍ら、昨年から社内のキャリアアドバイザーとして活動もしています。今回は、会社生活でのキャリアへの意識変革の必要性について書かせていただきたいと思っています。

会社生活29年で名刺が34枚

私は、入社以来の自分の名刺を1枚ずつ残しています。今は34枚あります。ですから毎年のように仕事が変わり、時には一年に数回変わった経験もあります。この中には、組織の名称が変わったものもありますが、昇格、社内での公募、名古屋への単身赴任、そして関係会社への出向と多くの異動経験が含まれています。自分でも異動が多いなと思っていました。会社で50歳の社員を対象に行うキャリアデザイン研修に参加し、今までの振り返りと今後の会社生活を考える機会を得て、これからのキャリアを考え直してみようと思いました。そして、資格を取得し、社内のキャリアアドバイザーとして、仕事の内容や職場環境に関する相談や、キャリア教育の支援なども行っています。

企業内環境とキャリア意識の変化

～会社も高齢化社会：バブル入社之苦～

私の話はこれぐらいにして、次に、企業で働く中で、キャリア意識が大きく変わったこととお話したいと思います。以前は、とにかく残業して仕事をすれば良かった。それで、多くの人が昇給と昇格を得られた時代です。極端なことを言えば、何も考えずに、会社に任せていればそれでよかった時代ですね。もちろん、反論される方も多いかと思いますが、今よりお気楽な時代だったと思います。会社も拡大を前提に社員数をどんどん増やした時期でした。それが、バブル（1988～1992年）崩壊後

で変わり出しました。今、企業ではバブル期に入社した社員が大きな割合を占めています。45歳から50歳の世代です。昔だったら組織をどんどん作って、多くの管理職を作れましたが、今となっては無理です。「組織のフラット化」、「成果主義」というポジティブな表現もされてきましたが、この世代の社員を抱えつつ企業が存続するために必要な組織体制を継続するための施策であったとも言えてしまいます。さらに、この後の就職氷河期世代も、先輩を追い越すほどの成果を出さなければ昇格しづらい状況が起っています。まるで、高齢化社会の年金政策のようです。

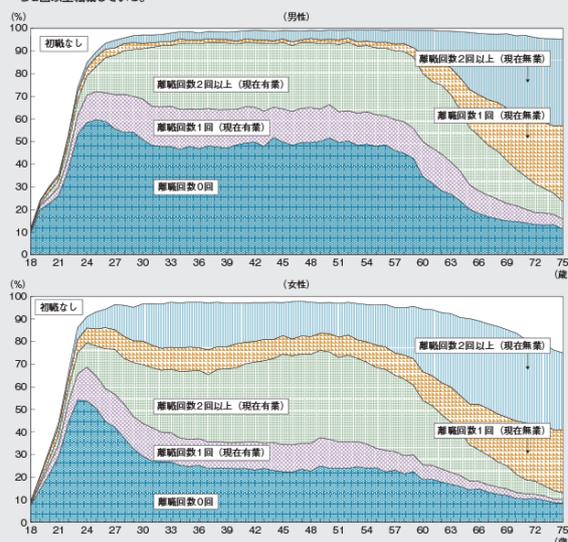
働く意識を自分で見つけ出す

～外的インセンティブから、内的インセンティブへの意識転換～

さて、自分自身でしっかり考えなければならない時代になりました。会社に任せていると、昇給や昇進という外的なインセンティブはむずかしくなってきました。日

図1 離職回数(年齢別初職からの離職回数割合)

- 男性では、30歳台から50歳台半ばまでの年齢層で、約半数が初職から離職することなく就業し続けている者が占められている。
- 女性では、初職から離職せずに就業し続けている者は少数派であり、40歳台後半では、約4割の者が初職から2回以上転職している。



資料出所 総務省統計局「平成24年就業構造基本調査」の調査票情報を厚生労働省労働政策担当参事官室にて独自集計
(注) 1) 現職が初職である者を「離職回数0回」、前職が初職である者を「離職回数1回」、その他が初職である者を「離職回数2回以上」とした。
2) 初職の有無が不詳な者は、集計対象から除いた。

～ 社内向けwebのカウンセラーの紹介からの抜粋 ～

遠藤 浩治(えんどう こうじ)

自分のキャリアを歩んでいく中で、幾つかの曲がり角や分かれ道があって、誰もが、それぞれの価値観や経験から道を選んでいくと思います。そんな時に迷ったら相談に来てください。私も、人材公募や転職(単身赴任)そして出向と多くの曲がり角を経験して今に至っています。



主な保有資格

- 特定非営利活動法人 キャリアコンサルティング協会(GCDF-Japan)認定
キャリアカウンセラー
- IPTCP認定 VolPデザイナー

趣味

日本酒(各地の地酒)が好きで、普段は仲間と日本酒専門店を飲み歩き、家族旅行の際には、酒蔵を訪問して自分用のお土産にしています。学生時代からテニスは続けていますが、ここ10年はシングルスは避けています

本の特長として、多くの人が転職せずに一つの会社を勤め上げるという傾向があります(図1 離職回数)。社内で厳しい席取りゲームに挑むのも一つですが、自分を見つめ直し、精神的に自律しながら働き甲斐を見い出して、仕事に納得感を得るといった内的インセンティブに切替えていくのも一つの方法です。

後者を選択しなければならない人が多いのが現実です。では、自分を見つめ直すためには、まず、できること(CAN)を棚卸しします。次に、会社や家族から求められること(MUST)を再確認します。そして、新しいやりたいこと(WILL)を創造するのも一つの方法です。そのために自己啓発も重要です。図2(自己啓発比率)にあるように自己啓発を行っている方が、高い所得を得ているというデータもあります。



さらに、図3(異動回数)に表れているように、管理職では、4回以上の異動を経験している人が多いというデータがあります。異動や仕事の変化にも、前向きに興味を持って、楽天的に挑戦することも重要です。「計画的偶発性」という、カウンセラーではメジャーな理論もあります。興味ある方は検索してみてください。

経済的な自立も重要です。少なくとも65歳までは稼がなければならない現実もありますね。私は、経済的自立をキープしながら、自らが納得できる仕事に挑戦しつつ、家族も納得できる生活を目指すことが「キャリアデザイン」と考えます。

この紙面だけでは伝えきれません。興味があればご連絡ください。お助けになるかどうか分かりませんが、校友会の方にはボランティアでお話を伺いたいと思っていますので。

図2 自己啓発比率[過去1年間の自己啓発の実施の有無別年収分布(30歳以上55歳未満、役員又は正規の職員・従業員、男女系)]

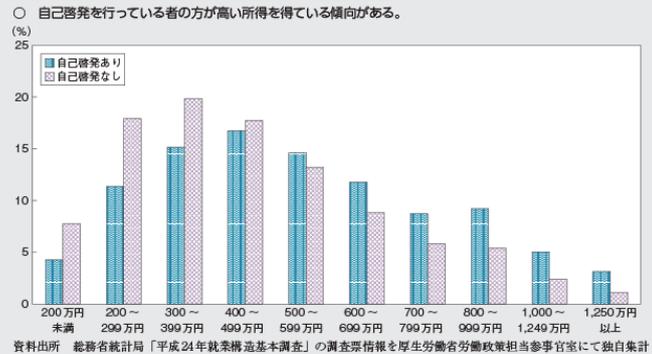
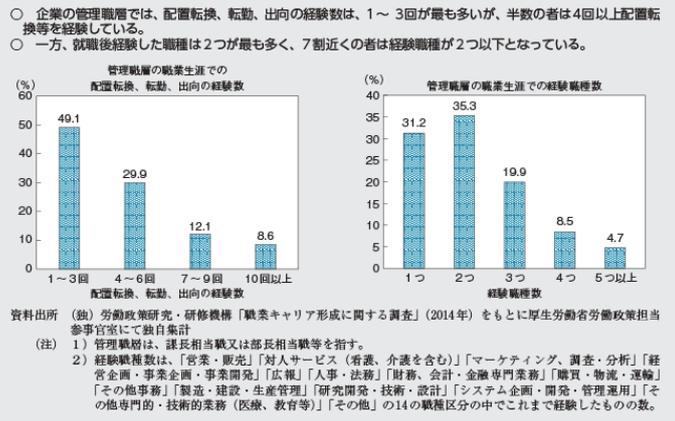


図3 異動回数(管理職層の職業生涯を通じた配置転換、転勤、出向の経験数と経験職種数)



遠藤 浩治

Koji Endo

1985年3月 工学部、電子工学部
情報工学コース卒業
1985年 日本電気株式会社入社
PBXのソフトウェア開発に従事
2001年 社内公募制度に応募し、パッケージソフトウェアの営業職に転向
2004年 組織変更によりPBXのSE部門に異動
2013年 NECエンジニアリング株式会社に出向



写真③

国立公園の山を生け捕る雨水の平池
彫刻：Mariko isozaki



同窓生
だより

4

日本のランドスケープ アーキテクト像を求めて

私は多摩川の崖線緑地の近くで生まれました。小学校4年生の時、多摩川の土手が見えないくらいの大きな団地が出来上がりました。「風景とは人の手によってずいぶん変わるものだ」、今にして思えばこの体験が、風景を作る仕事をしたいと思った原点になっていたと思います。

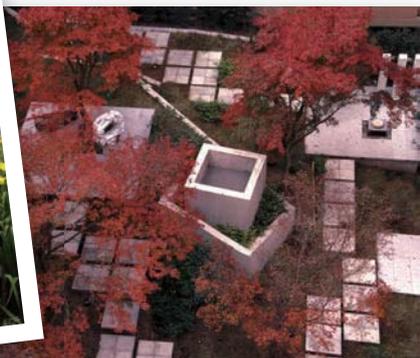
写真①

農業用水路を街なかに引き込んだ“今井ニュータウン”（長野オリンピック選手村）



写真②

世界から集められたアート作品のある集合住宅の中庭



学生時代に得たもの

師、伊藤鄭爾に会うことができたのは大学の3年生の時、はじめ伊藤先生は波多江研究室に週1,2回通ってくる非常勤講師だったと思います。翌年いきなり研究室を持ち、私は一期生として研究生になりました。

街並の調査等をしながら、山村を回ったりしているうちに、当時の民家園の民家と、実際の茅葺きの村落ではずいぶんと差がある事を感じました。その差の多くが街路を含めた外部空間にある事を発見しました。今で言うランドスケープデザインです。

でも当時はそのような言葉はあまり使われていませんでした。事実今のようなランドスケープデザイン事務所は日本にはほとんど存在していませんでした。

一方70年代、次々と生活スタイルや産業の仕組みが変わり、あっという間に、全国から生活と一体になっている民家村落群は、消えていったのです。

スペインの村を歩く

まだ大学の研究室に通っている頃、伊藤に海外の村を見るには何処が面白いかと聞くと、イタリア、スペイン、という言葉が返ってきました。違う人には違う国をすすめていたとも聞きますが、私はそのときからスペインに興味を持ち始めました。1981～82年私はマドリッドを拠点にスペインの集落を見て歩きました。この紹介はいずれ他の機会に譲るとして、この少し長い旅は私の人生に非常に大きな影響を与えました。

どの村も、そこでしかない何かを持っている。その場所から生まれる風景、仕組みや習慣に誇りを持っている。多くの人が自らのまちや村を自慢げに語る。場所の持つ力が、人々を生き生きとさせていると感じたのです。

隙間が全体をつくる

その頃から、隙間をつくる事は、全体をつくる事にも大いにつながると考えだしました。「建築はどっちむいていても良い。」そんな事をいっていたら、長野オリンピック選手村(今井ニュータウン)のランドスケープを担当する事になりました(写真1)。当時の中堅スター建築家達を相手に「私は皆様の隙間を埋める隙

間デザイナーで、このような仕事を隙間産業といいます。」と話し、皆の笑いを誘った事をおぼえています。それ以外に商店街のモール化事業、戸建住宅開発、集合住宅外構(写真2)など建築以外の隙間を埋める仕事を続けています。そんな中、20年も関わっている仕事が成田山の表参道整備計画で、本当に少しずつまちが修景していく様は大変興味深いものです。また最近では海外での仕事もしています。(写真3)

このように隙間と緑を扱いながら仕事を続ける中で、もう少し一般の人にも分かりやすく、美しいみどりの空間を作りたい人の為に“緑の空間”という本を著しました。緑の空間を作る事が様々な意味で躊躇されてきている今、よりわかりやすい新しい形の造園の本が必要ではないかと考えたのです。(写真4)

さらに、景観形成を目的とするART in FARM(内容はYOU TUBE等で検索ください)という活動もはじめています。

美しい景観は、より多くの人とのつながりなしには出来ません。景観は作った時からがはじまりだからです。また今まですでにある景観をどのように活かすかも日本のランドスケープアーキテクトの重要な役割だと考えています。

その意味では私はまだまだ、その職業像を求めている過程にいます。



写真4

建築家の為のみどりの手引書

井上 洋司

Yoji Inoue

1969年 工学院大学建築学科入学
1975年 工学院大学建築学科修士課程終了
主な仕事：成田山新勝寺表参道修景計画
今井ニュータウン(長野オリンピック選手村)

主な賞：千葉県街並み景観賞知事賞(谷津遊路)、都市景観大賞「都市景観100選」(横須賀駅周辺地区計画ランドスケープ)、彩の国さいたま景観奨励賞(ガーデンアベニュー志木幸町)

主な著書：雨の建築学、雨の建築道(日本建築学会編・共著)、ローメンテナンスでつくる緑の空間・(彰国社 単著)他



和太鼓 祭座と出会って

同窓生
だより

5

和太鼓・祭座の紹介



祭座 高篠雅也座長

座長の高篠雅也氏は1974（昭和49）年生まれ、11歳で和太鼓を始める

1993（平成5）年：工学院大学高等学校卒業

1996（平成8）年：21歳で独立し八王子で和太鼓・祭座を結成

2002（平成14）年：“JAPANESE DRUMS”英国ARCミュージック社よりCDファーストアルバム発売 国際デビュー

2006（平成18）年：第3回東京国際和太鼓コンテストにて大太鼓部門で優秀賞
一座としても組太鼓部門 青少年の部でも最優秀賞

2014（平成26）年：EXILE五大ドームツアーで太鼓によるゲストとしてツアーに参加（東京、大阪、福岡、札幌）

現在：各地での演奏活動の他に指導、楽曲提供、作詞、作曲、編曲、構成、演出、振り付も手がける。

保育園児から50代までの男女構成によるプロ、アマ混成“ファミリー一座”

[主な出演]

吉幾三・新宿コマ特別出演、山本寛斎・スーパーショー特別出演など

工学院大学高等学校出身の素晴らしい和太鼓奏者が、活躍している事を知っている方は少ないと思います。

新曲発売は翌、平成18年春となり、発売を記念して三春交流館「まほら」にて歌謡祭を行うことになった。家内がカラオケを習っていた関係で、歌謡祭を手伝うことになり、県内外から参加者を募り、広告を集め、関係団体との調整、PRパンフやプログラム作成など、初めての経験となったが多くの方々の協力で成功裏に終わることが出来た。

歌手の美桜さんを「三春滝桜観光大使」に任命し、この曲で三春町を盛り上げるべく平成20年春に地元のアマチュアバンドとジョイントコンサートを企画し、同じ会場で開催し成功した。この年の秋、千葉県鴨川のホテルで美桜さんのファンを集めてのコンサートに、三春町議会議員の立場で来賓として招待された。

このコンサートに参加していたのが、和太鼓・祭座であった。和太鼓は三春町での大々的な盆踊りで聞いていたが、祭座の和太鼓は感動的な演奏であった。演奏を終えた後ずうずうしく舞台上上がって、いろいろな話の中で、お互いの母校が工学院大学高等学校であることを知った。まさに偶然であった。

人の縁の不思議さをあらためて感じた。現役時の電子機器の設計でも人の縁の大切さを実感していた。新しい仕事も最後は人の縁があるか否かで決まることを経験していたので。

三春町に招いて

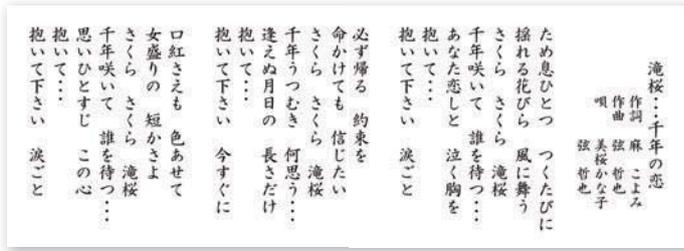
美桜さんをメインゲストとしたジョイントコンサートは毎年開催し、平成22年6月のコンサートには和太鼓・祭座に出演をお願いした。プロの大人に混じって大勢の子ども達も参加し、前日から町内宿泊施設に泊まり当日に備えてもらった。町のお店や宿泊施設での、子ども達の礼儀正しさや行儀の良さは街中で評判になるほどであった。これも座長の指導によるものと、

出会いは

私の地元、福島テレビで「カラオケグランプリ」と言う人気番組があった（東日本大震災でスポンサーが被災し現在は中止）。カラオケで歌の上手さを競う人気番組で、作曲家で有名な弦哲也氏が番組開始当初から審査と指導に当たっていた。弦哲也氏が自身の音楽生活40周年、番組担当20周年を記念し「弦哲也と福島の唄を作ろう」との企画で「滝桜・・・千年の恋」と言う曲が誕生した。平成17年であった。

滝桜は地元、三春町にある樹齢千年以上の天然記念物の紅しだれ桜で、春には毎年30万人前後が訪れる。

それを題材に作曲は弦哲也氏、歌手は千葉県佐倉市の美桜かな子さん（弦氏は千葉県在住）になった。



先輩として大変に嬉しかった。当日の和太鼓の演奏もメインゲストをしのぐ人気であった。もう一度、三春町で公演する機会があればと思っている。

学園での出演

平成24年は工学院大学学園創立125周年を迎えた。10月の記念式典後の祝賀会に出演してもらうべく座長にお知らせした。座長から記念準備委員会にお願いし幸い出演が決まった。10月31日の祝賀会開幕での座長の演奏は賑々しく盛上げてくれ、これも大変に素晴らしかった。

平成26年は高等学校を昭和33年3月に卒業した仲間が75歳になる年である。新宿校舎育ちで、八王子校舎を見たことがないので、昭和32年度電気科卒業生（電気科32会）は9月末に高校の文化祭「夢工祭」に合わせ、卒業以来56年振りに母校を訪問した。

工業科がなくなり全てが普通科の男女共学校になり一抹の寂しさを感じたが、母校の発展には目を見張るものがあり嬉しかった。

平成22年6月
三春交流館「まほら」でのジョイントコンサートのプログラム(右)
和太鼓・祭座の演奏(下) (左端：高篠雅也座長)



人の縁は大切に

私はカラオケとはあまりご縁がなかったが、平成18年の歌謡祭の役員を断っていたら、祭座とめぐり会うことはなかったであろう。現役時代もその後の地域活動でも多くの人と接するように努めている。人の縁を大切にすれば必ず道は開けると考える。メールやネットで便利な時代になったが人と交わることが一番大切と思っている。和太鼓・祭座の益々の活躍と発展を祈念しながら…。(和太鼓 祭座で検索すればネットで詳しく見られます)



平成26年9月28日
工学院大高校昭和32年度卒75歳記念クラス会での祭座(右端：高篠雅也座長)

平成24年10月31日
工学院大学創立125周年記念祝賀会開幕での座長の演奏



小林 鶴夫 Tsuruo Kobayashi

1940年(昭和15年) 東京都台東区生まれ
1945年(昭和20年) 3月の東京大空襲でも奇跡的に助かる
1955年(昭和30年) 工学院大学高等学校電気科入学
1958年(昭和33年) 工学院大学電気工学科電子工学コース入学
1962年(昭和37年) 同上第1回生として卒業
日立電子エンジニアリング入社
1976年(昭和51年) ヤギシタ電機株式会社転職

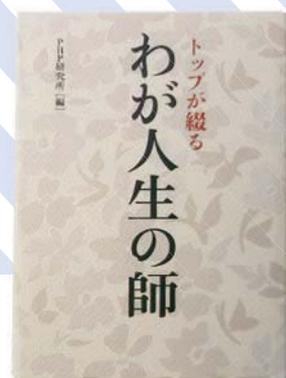
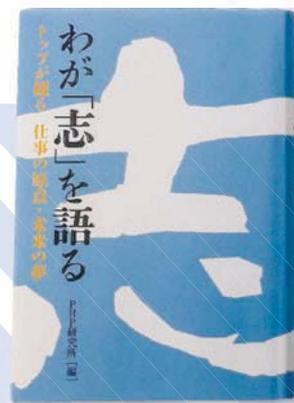
1983年(昭和58年) 福島県郡山市の日立グループに戻る
2000年(平成12年) 定年になるも継続勤務となる
2003年(平成15年) 日立コミュニケーションテクノロジーを退職
設計・試作「電子工房」設立
2004年(平成16年) 三春町中央児童館々長
2007年(平成19年) 三春町議会議員

ふりかえって見た 私の歩み

同窓生

だより

6



この度、校友会広報部より卒業後の一言という機会をいただきましたので、古い事を思い出しながら書かせて頂きました。

“時の流れは川の流れの如く休む事なく早い”のに驚いています。私が卒業したのは、昭和33年で成人式が終わって間もない頃の事でした。私にとっては人生の原点と考えられるほどお世話になった大切な母校です。

私の学んだ当時は専修学校で夜間の2年制でした。授業は夕方5時50分からの3時間ほど行われていましたが、私は昼間建築の現場で働いていましたので、若いとはいえ体にこたえた事を今でも覚えています。この頃、夜間で教育して下さる学校は都内でも数えるほどしかなく、有難い学校でした。それに都内でも屈指の最良の場所にあり、又長い歴史は関係者のこの上なき努力の結果と私はいつも思っております。私の学んだのは建築でしたので夜間はきつい環境で、卒業の時の人数は入学者の3割位と記憶しています。卒業の時の先生の話が今でも頭に残っています。その一言は「今回卒業される人は全員一級建築士は一回で合格出来る実力があります」。この言葉は後日大きな自信となりました。

卒業して間もなく、設計という技術を身につけ全ての物事は設計という計画が基本にあって成り立つものであると知った私は、人生という自身の設計をしました。数年後に受ける事の出来る一級建築士の取得、それに見合う能力を身につけ勤務先でリーダーとなる年齢、独立する年齢など無理のない余裕ある間をもった計画で歩みました。

こうして30年以上経った3年ほど前に埼玉県内の土木建設業の収益ランキングで一位になった事が情報誌に掲載されました。これが縁で平成25年にPHP出版が発刊した「トップが綴る“わが人生の師”」という本に『母からの贈り物』という題名で、翌平成26年には同出版発刊の「わが“志”を語る」には『自分を信じる』という父の言葉』

という題名で執筆しました。その一部をこの後に続けますので、これが次の時代を受け持つ方々に少しでも参考になれば私のこの上ない喜びです。

『自分を信じる』という父の言葉 (平成26年)

私の生まれたのは農村で、15歳のとき、父が42歳の若さで7人の家族を残し他界しましたので、決して恵まれた環境ではなかったと思います。でも、生まれた村は皆助け合って暮らすすばらしい村で、自分の境遇に不足を感じませんでした。父はこの村で建築の板金職人をしておりましたので私の家は非農家と言われていました。

中学を終えたときに、頼りの父はいないし田んぼはないし、村には働くところもなかったため、私は一度もいったことのない東京に出て、父と同じ仕事で住み込み見習いとして働きはじめました。慣れるのに時間を要しましたが、落ち着いた頃、生前父が私に話していた「自分を信じる」という言葉を思い出し、これがまさに「志」と信じ、心に刻んで生きていくことに決めました。とはいうものの、そのときはまだ、自分は今どこに立っていてどの道を歩いてどこに行くのか、迷っていました。

そのとき私は携わっていた建築の仕事のなかで社会から求められる企業者となることを決めたのですが、そのときは迷いもなく、自分を信じて踏み出すことが出来ました。能力も経験も相談する人もなく計画どおり進むとは考えていませんでしたが、現実はその以上に厳しいものでした。時をみて建設業を始めましたが、何度もつらいことがありました。

資金ゼロから始めた本当の零細企業だったため、会社はすぐに窮地に陥りました。そこで知人の紹介で信用金庫に借入れの申し込みをしましたが、担保もなく保証人もなく簡単に断られてしまいました。しかし、振り返ってみれば、このとき断られてよかったと思います。

■賞罰

平成 3年 11月	表彰状	埼玉県建築士事務所協会
平成 4年 2月	感謝状	工学院大学創立100周年記念
平成 6年 11月	感謝状	日本赤十字社社長
平成14年 4月	感謝状	工学院大学法人評議会
平成17年 5月	表彰状	比企都市連合神社総代会
平成17年 6月	表彰状	埼玉県神社庁長
平成19年 5月	感謝状	工学院大学 校友会理事
平成25年10月	表彰状	工学院大学創立126周年記念
平成26年10月	表彰状	工学院大学創立127周年記念 大勝靖一賞 受賞

もしお金をたやすく調達できていれば、私は物事を安易に考える人間になり、必ず失敗していたと思うからです。

その後も困難は続きました。知人から店舗建築を受注し、事なく完成したと同時に受注先が倒産。工事代金の全額を失いました。このときは、もう終わりかと思いましたが、そのようなたくさんの困難という魔物に何度も出会いながらも、自らの責任で目指した「志」の支えを受けて、逆に慌てず落ち着いて行動しました。

踏み出して30年以上も自分を信じ歩んで、多くの知人、お客様からも期待されることができ、また私の考えていた思いを超えることができたのは、確かな心を支える「志」があった結果であると、私は思っています。

母からの贈り物 (平成25年)

今から10年前に他界した私の母は、大正元年生まれの"昔者"でした。この母は38歳のとき、頼りの夫を突然亡くしました。このとき残された子ども6人の長男が私でした。中学を終えたばかりの15歳のときです。母は先の見えない険しい道を歩むことになり、地獄を見てしまったと、私はそう思っています。

この母は、私が中学生になった頃から色々な話をしてくれました。社会人になったときに恥ずかしくない人間になってほしいとの親心だと思いました。私は、この話のなかから得たたくさんの大切なことが、実社会にでてからの私の大事な生きて道しるべとなり、このおかげで今日の私があると感謝しています。

この昔者の母は、小さな身で話すことに行動を伴って私に教えてくれた大切な師です。

人は誰もが成功という豊かさを追い求めます。これは当然すぎるくらい当たり前のことですが、私の母は少し違って、「成功することは考えなくてよい」と言っていました。曰く、「焦ったり走ったりしないで失敗をしないようにゆっくり深く考え行動する、これを毎日積み重ねて行くことが大切だ。そうすれば結果には成功という

昭和11年8月 埼玉県比企郡にて出生
昭和33年3月 工学院大学専修学校建築課卒業
昭和33年4月 大林組 入社
昭和38年6月 株式会社新井工務店 入社
昭和40年1月 一級建築士 取得
昭和41年4月 株式会社新井工務店取締役就任
昭和47年4月 2級土木施工管理技士 取得
昭和48年8月 梶野建設株式会社設立
代表取締役
昭和63年7月 建築設備士 取得



梶野 和己

Kazumi Kajino
梶野建設株式会社
代表取締役

答えがまっている。熟慮のない焦りは一番よくない」と。また、「どんな道にも裏と表があるから、人生はいつも成功と失敗を頭の中に描きながら歩むことが大切」「ありのままの己が一番いい、自分の力以上のことをほかの人に見せようとする見栄をもってはいけぬ。花もおなじだよ、ほかの花を見て、もっと美しく咲きたいと思ってもそれはできない。自分らしく精一杯咲く花が一番美しい」「誰もほかの人より私かと思う"我"という心がある。これは戦う心で大切かもしれないが、どちらかが勝ってどちらかが負けるということで、この世の中で勝ちつづけることは難しい」とも言っていました。

このように、母からいろいろなことを教わりましたが、いつも私の頭から離れることがなかったのは「自分の歩む道は自分でつくるように」という言葉でした。これは人様のお世話にならずに自分の力で歩んでほしいとの、親としての一番の願いだと思っています。

昔者の母から得た小さな豆知識ですが、どなたかの目に触れることができたなら、このうえない光栄です。

■学園その他に於ける活動

平成 3年 PH国立リザール・テクノロジカル大学
名誉博士号授受
平成 8年～19年 工学院大学専門学校
同窓会理事・工学院大学 校友会理事
平成15年～19年 工学院大学専門学校 建築学部講師
平成16年～18年 工学院大学 校友会埼玉西支部長
平成26年3月 東京国際仏教塾 修了
平成26年5月 僧名受興 (法名 澄仁)



大勝靖一賞受賞式にて(平成26年10月)

工学院大学 総合優勝

秋田県支部長 富樫 良一

タイトルは平成26年8月9日から12日に秋田県大潟村で開催された全国ソーラーカーラリー大会の翌日、8月13日付の地元紙「秋田さきがけ」に大きく取り上げられた記事の見出しである。

大潟村は、50年前農地拡大のため八郎潟を干拓して造られた、山手線一週と同じ面積を有する村落であり、大会で使われたコースはレース専用道路として作ら

れました。

学生メンバーが、手作りのおにぎりを片手に若い濱根先生の下にがんばっていたのが印象的であった。

大会期間中、校友会本部からは福田、甘粕両氏が、支部からは家族を含め数名が参加し、熱心に応援した。

次回の大会には秋田県支部として、秋田名物の『きりたんぼ鍋』の提供や、『リ

ケジョ』を目指す秋田美人(?)の女子高生の観戦などを企画したいと考えている。



濱根洋人教授と談笑。佐藤公世幹事、佐々木修會計。



表彰式後、副賞の「あきたこまち」前に集合。後ろは、ゴールゲート。



ソーラーカーレース優勝ゴールの瞬間。



校友会学園連携部長福田忠彦氏(中央)、秋田支部長富樫良一(右)、濱根洋人教授(左)

芋掘り&バーベキュー大会で支部興し

千葉県支部 会計・広報担当幹事 植木 幸裕

千葉県支部は今年創設60周年を迎えます。2013年の新制度の元、役員が一新され、これを機に、何か恒例となる独自行事を立ち上げて、歴史ある千葉県支部の活性化を図ろうと、2年前から、長嶋茂雄巨人軍終身名誉監督の出身地、千葉県佐倉市の「草ぶえの丘」で芋掘り&バーベキュー大会を開催することとしました。校友のみならず、そのご家族や友人にも輪を広げ、将来の校友の卵を育てようと目論んでいます。

芋掘りは千葉北総台地で育った「紅あずま」。素手で土を掻き分け、蔓を引っ張るとまさに芋蔓式に1株から10本以上のさつま芋が地上に顔を出します。

その後、草ぶえの丘にあるBBQハウスでのBBQ大会。千葉県には〇〇和牛といった全国に名を馳せた和牛はいません

が、三方を海に囲まれた海の幸豊富な県。伊勢えびの水揚げは日本一ですが、少々高いのでBBQの網には乗りません。そして誰が指示する訳でもないのに、火起こし、野菜切り、網焼き、鉄板焼き、空き缶集め等と自然に役割分担が出来て、最後は満腹でもう食べられないと言いつつも、焼き芋のいい香りが漂うと、芋は別腹と食べてしまう・・・。

「まあ楽しい一時を過ごせたからいいか。明日からダイエットしよう。」と思っても食べきれない紅あずまの山、てんぷら、大学芋、金時、蒸かし芋・・・ぐるじい〜。



奈良県支部

奈良県支部発足に寄せて

奈良県支部長 磯 三男

平成26年3月1日発足

平成26年1月半ば、建築学部の教授であった谷口宗彦先生から、「奈良など関西にはこの様な同窓生がいますよ」とのメールをいただき、さっそく古い大学・校友会関係の資料を取り出し、奈良県在住の校友にメールや電話を掛けました。

以前から、同じ町に校友が住んでいることを知っていたので、電話で確認すると、「昨年亡くなりました」と、奥さんが大変残念がっていました。私も近くなので、そのうちお会いし親しくお話したいと思っていたので非常に残念で悔やまれました。

また、市中心部にM先輩（1957年卒機械工学科）がいることを知っていたので、以前近くに行った時、訪ねたところ息子さんから、「寝たきりです」とのこと、それ以来私がボランティア活動で年4回発行の会報などを届けています。他にも、「腰痛で歩くことが困難になっている」「体調を崩し

ている」などの返事をいただきました。

これも歴史のある工学院ならではのことと思い、青春時代を同じ学び舎で過ごした仲間が、遠く離れた奈良の地にいる、一日も早くつながりを作ることだと痛感した次第でした。

そこで、電話で確認できた6名と、2月2日近鉄奈良駅前でお会いし、新宿での青春時代の話で盛り上がり、奈良県支部を立ち上げることとなりました。

奈良県支部の活動

奈良県支部設立にあたり、支部の目的を、会員相互の親睦のため、会員間の繋がりを深める。学園の発展に寄与することとしました。キャッチフレーズは「奈良県支部を通して「校友」を知り「奈良」を知る」。具体的な活動計画としては、会員の消息が伝わる組織にする。学び合い、情報交換の場をつくり、律令国家完成の地

「平城京」を知り、奈良を知り、日本を知る。奈良の地から発信する、としました。

校友が少ない会ですが

現在名簿で確認できる会員は44名です。平成になり26年経っていますが、平成卒の同窓生は8名です。

平成27年3月29日には、1300年前の奈良の都の宮跡平城宮跡で花見を行う予定です。



西東京支部

「わくわくサイエンス祭科学教室」 演示に初参加

西東京支部長 小林 保男

毎年、当支部は科学教室を見学して楽しんでおりましたが、平成26年8月第21回科学教室のテーマ「飾り炭を作ろう」で演示に初参加しました。これは学園行事に校友会が組織としてボランティア参加する初めての事です。風穴とスノコを設けた半ドラム缶に炭火をおこし、20缶に炭にする材料を収め、蓋をして40分前後空気を絶って加熱（蒸焼き）します。

製作希望者は2日間で120名の子供たちです。材料は枯れた松ぼっくり、どんぐり等の木の实、竹、竹の葉などです。難しかったのは折紙で作った鶴の蒸焼きです。強火では碎けてしまいます。先輩の経験から、折り鶴をアルミホイールにそっと包み、

これを20缶内の針金の台に吊るし焼き上げると炭になった折鶴の出来上がりです。

「飾り炭を作ろう」は「ものづくり」でした。材料を蒸焼きにすれば綺麗な炭の作品が出来るわけではありません。何回もの失敗を経験し、これに改良を加え、今日に引き継がれています。

焼き上がった炭を並び替え、見栄えのするように整え、固定し透明なケースにセットして無二の作品が出来上がります。親子共に笑顔で会場を去る姿を見て、演示参加した支部全員が「やって良かった」と感じた瞬間でした。

又近隣支部の方々にもお手伝い頂き感謝しております、有難う御座いました。



20缶に炭材料をセットする作業



飾り炭展示見本

製作希望者の受付待ち行列

機械系 同窓会

機械系同窓会の恒例イベントが初夏、初秋と毎年2回行われています。

一つは初夏7月の第4土曜日の夕方から納涼会も兼ねて仲間のお話を聞く「活躍するOBの報告会」。初回は2006年(平成18年)でした。今年は節目の10回目です。

今までの講演テーマは、百済に関する歴史的研究・考察、退職後に整体師の資格を取得した整体院院長の東洋医学の話、世界初の二輪車用500cc楕円ピストンエンジン開発秘話、

日本のモータースポーツの草分け時代のお話、日本の温泉研究で環境大臣賞受賞等々です。実に多才で愉快的仲間達が頑張った痛快かつ興味あふれる内容でした。

もう一つは初秋10月の原則第2土曜日の午後から開催する「秋の集い」です。学生プロジェクト3~4チームの活動報告と機械系先生方から最新の研究についての講演をしていただき、その後懇親会というのが例年の内容です。

学生プロジェクトの若々しい皆さんや先生との熱い意見交換もでき、実に有意義な時間が過ごせます。これらの内容は、同窓会ホームページの活動報告・バックナンバーでご覧いただけます。



また、今年のイベントは同窓会誌KUMEAやホームページに掲載しています。

OB・OGの面白い話、学生さんの活躍そして工学院大学の最新の研究など、和やかな雰囲気の中で知見を深めることができます。まだ一度も参加されていない方、また他同窓会の皆さんのご参加も大歓迎です。ご参加をお待ちしております。

化学系 同窓会

化学系同窓会では、毎月第2土曜日の夕方、「化学の夕べ」を行っています。

平成26年度は、化学系教員の先生方に講師をお願いして4回、校友による講演が4回で、計8回開催しました。

「化学の夕べ」は、化学系教員の先生方、化学系同窓会準会員の学生諸君、そして化学系同窓会会員の校友の皆様との集いの場です。先生方の研究について講義して頂く場であり、学生諸君の研究発表の練習の場でもあり、校友の社会経験を若い世代に伝える場でもあります。「化学の夕べ」は、毎回、いろいろなテーマで開催されますが、校友の皆様にとりまして、母校の化学系学科の現在を知ってもらう良い機会になれば幸いです。また、校友の皆様の企業と大学の交流の場となれましたら嬉しい限りです。

「化学の夕べ」は、新宿校舎中層階8階ファカルティクラブで、毎月第2土曜日の夕方、午後5時30分開始で、1時間の講演と、その後の1時間の懇親会で構成されています。平成27年度も、校友の皆様に「化学の夕べ」を楽しんでもらえます様に、より一層内容を充実してまいります。ご期待下さい。



電気系 同窓会

毎年恒例のバスツアー、今年は小さなお子様から大先輩の校友までの幅広い年代が楽しく、未来技術を学べる内容で行ないました。まずは、これから一層の進展が期待されている宇宙開発の最前線を学ぶためにJAXA筑波宇宙センターを見学。耳をつんざく発射音や「きぼう」日本実験棟実物大モデルでどんな研究が進められているかを体感しました。次に、独立行政法人産業技術総合研究所を訪問。お昼は、日本で最初の本格的ワイン醸造所としても有名なシャトーカミヤでBBQ。科学から醸造学まで学びに徹したツアーとなりました。SFの世界が少しずつ現実に近づいていることが実感できました。



建築系 同窓会

「建築系同窓会誌 NICHEは変わりました。」

昨年、皆様にお知らせしたようにNICHEは大きく進化しました。

「工学院大学建築学部同窓会NICHE出版会」が立ち上がり、今後は同窓生や教員の出版を発行する体制が整ってきました。

今年もNICHE MOOK 02, NICHEダイジェスト版2015 vol.38の2冊を発行するに至りました。

NICHE MOOK 02の特集は、「台湾建築探訪!」です。

我校の建築学部教授である藤森照信先生の作品を紹介する特集1「台湾のフジモリ建築」、工手学校の卒業生であった梅澤捨次郎が台湾で活躍したことにスポットを当てた特集2「知られざる梅澤捨次郎の仕事」、台湾の現代建築取材した特集3「台湾現代建築マップ」、台湾の現代建築取材した特集4「台湾の現代建築2題」、さらには、校友である北澤興一氏が保存活用するアントニン・レーモンド設計の夏の家とその一連

の資料を取材した特別企画「アントニン&ノエミ・レーモンドのトータルデザイン」、連載企画「近代建築を支えた建築家の系譜」など、読みごたえのある内容となりました。

「NICHE MOOK 02」は、大学生協はもとより、丸善を中心として一般書店でも購入ができるようになりました。Amazonでも購入ができます。台湾においても紀伊國屋書店で販売致します。

今後とも、NICHEをよろしく願い申し上げます。



附属高等学校 同窓会

年に一度毎年6月の第二土曜日には、工学院大学八王子キャンパス内の食堂を利用して附属高校同窓会懇親会を盛大に行っています。昨年は3月に卒業したばかりの新OB・OGが100人以上も大集合致しました。また工学院高校で教職課程を実習中のOB・OGが加わり、10代から70代まで幅広い年代が一堂に会した垣根のない本当の意味で同窓会懇親会になりました。



また「夢工祭」では同窓会主催の喫茶コーナーを毎年出店しています。こちらはすっかり定着しており昨年は大先輩の『75歳記念クラス会』の方々が校舎や夢工祭を見学されたあと喫茶コーナーに立ち寄られ、我々後輩たちへ当時の卒業アルバムを前にされるお話は大変興味深いものでした。

高校同窓会は広報誌「夢広場」で催しの紹介を行っています。あなたの時間が許すときなどお会いできるのを楽しみにお待ちしております。



専門学校 同窓会

専門学校同窓会は一般社団法人工学院大学校友会専門学校同窓会として2年目を迎えました。

平成19年3月の卒業生を最後に新しい会員を迎える事はできませんが、現会員で活動しております。

平成26年度の活動は、以下のとおりです。

- ① 2014年5月25日：校友会社員総会に合わせて同窓会会員27名参加のもと報告会・意見交換会を行いさらに懇親会にて交流を深めました。
- ② 2014年6月21日：横須賀市にあります汐入ターミナルを起点としたアメリカ海軍や海上自衛隊を間近で見られる横須賀ならではの「ご当地クルーズ」の見学会を15名の参加のもとで開催しました。見学会の後、久里浜で新鮮な海の幸を堪能しながら懇親会を実施し更なる交流を深めました。

- ③ 2014年10月18日：工学院大学校友会 第17回全国大会・埼玉大会が新宿校舎で開催され、29名参加しました。埼玉大会閉会后、4階の専門学校資料室にて、お互いに近況報告し、親睦を深めました。



- ④ 2015年1月11日：校友会新春の集いが開催されて、23名参加しました。「新春の集い」閉会后、4階の専門学校資料室にて、専門同窓会の新しい年を祝いながらお互いの親睦を深めました。今年度も校友会活動へ参加し、又見学会等も企画していきますので、多数のご参加をお願いします。

OB会から

ヨット部OB会 幹事長 信次郎

全日本 A 級デインギー大会で奮闘

全日本 A 級デインギー大会は全国の各大学ヨット部 OB・OG 並びに愛好の方々が集まり開催されています。開催地は、毎年変わり、今年 24 回は東北の復興支援も兼ね宮城県松島で行われました。

我が工学院大学ヨット部 OB 会は 23 回稲毛大会より出場し、前回同様成蹊大学ヨット部から使用艇を快くチャーターさせて頂きました。

7 月 4～6 日は、梅雨の真最中でしたが天気恵まれ、出場 39 チーム・出艇 52 艇、参加者は 20 代から最高齢者 89 才、往年のオリンピック選手等総勢 310 名が集まり、5 日には盛大なパーティーで旧怨を暖め和やかなうけを楽しみました。

我がヨット部 OB 会は、シニアクラス・一般クラスの両クラスに出場し、8 レース中ファーストフィニッシュ・4 位と好成績を残しました。母校の知名度アップに貢献出来るよう OB 会として、スポーツマンシップにのっとり頑張りました。

来年は、関西大学・大阪大学・甲南大学 3 校が主管校、兵庫県、西宮市後援で 5 月 29 日～31 日に新西宮ヨットハーバーで開催されますので、OB の皆様方のお出場・応援をお待ち致します。



三和シャッターOB会 会長 上野 耕平

校友会活動を盛り上げる 三和シャッター工学院OB会

三和シャッター工学院OB会は 2011 年 11 月に校友会の職域支部として理事会の承認を受けて設立されました。三和シャッターには現体育会連合OB会会長の渡辺静雄氏（電気工学科 1963 年卒業）を筆頭に 43 名のOBが在職しており、また営業部門と持ち株会社（三和ホールディングス）の本社とが、新宿校舎斜め向かいの新宿三井ビルにあることから精力的に校友会活動に参加しています。

具体的には、首都圏（新宿、板橋）勤務のOBが中心となり、1 月の「新春の集い」を皮切りに 2 月の「東京マラソン・ボランティア」、5 月の「社員総会」、10 月の「全国大会」、11 月の「ホームカミングデー」へ参加するとともに年に 2～3 回の幹事会を新宿校舎の「ファカルティクラブ」で開催し、OB 相互の親睦を図っております。

また、代議員としても当OB会会長の上野耕平（電気工学科 1973 年卒業）と副会長の谷井繁夫（生産機械工学科 1985 年卒業）の 2 名を輩出しており、職域支部OB会として一体感をもって校友会活動を盛り上げています。



上：東京マラソン 選手は 1990 年機械卒の梶芳さん
下：ファカルティでの幹事会

各部会の報告

総務部

総務部長 志村 豊

総務部は、8月を除いて毎月1回の部会を開催しました。また、9月には富士吉田のセミナーハウスで一泊二日の臨時部会を開催しました。

一般社団法人に移行して2回目の校友会社員総会が5月25日に開催されましたが、総務部では、昨年の第1回社員総会終了後、直ちに次年度の総会準備に取り組み、社員総会前日迄、分刻みのタイムスケジュールを何度も見直し検討を重ねました。その結果、総会、表彰式、懇親会の運営を、総務部員全員のチームワークで乗り切ることが出来ました。

また、今年は、2年に1度の代議員選挙がありましたので、関連規則類の見直し作業と、代議員選挙の準備作業を校友会事務局と協力して行いました。

昨年に引き続き、旧規定類から新規格類への見直し作業を行いました。特に、全国大会開催規則に関しましては、開催支部にとって魅力あるルール作りを目指し、現在も審議を継続しております。

総務部は、各部に属さない事項を検討する部署でも

あります。校友会全般の多種多様な事項を検討するには、月に1度の部会では時間が不足気味ですが、企画・立案や、中長期計画に関する調査・研究に積極的に取り組むことも、総務部の大切な仕事です。

もっと、もっと素晴らしい校友会にする為に、今後とも、広く校友の皆様からのご意見を賜りたく、ご協力をお願い申し上げます。



財務部

財務部長 若松昭秀

1. 平成26年度予算：事業部積上案を1,450千円削減した案を理事会で議決した。

2. 平成25年度収支決算および平成26年度予算案を五月の社員総会で報告した。

3. 校友会の会計処理チェックを1/4期毎に例年通り年4回実施した。

ア) 支出額と領収書金額を対比し、一致することを確認した。

イ) 銀行通帳残高と債券の存在を確認した。

4. 校友会監事による平成25年度同窓会決算の監査に立ち会った。

【同窓会監査日】

- 7月28日15:00～ 専門同窓会
- 同日15:00～ 化学系同窓会
- 7月30日16:30～ 建築系同窓会
- 8月9日10:30～ 機械系同窓会
- 8月22日15:00～ 高校同窓会(八王子にて)
- 同日16:30～ 電気系同窓会



5. 財政健全化ワーキンググループを立上げ、財政健全化について議論し検討した。

メンバーは財務部長、総務部長、各部より1名計6名、監事1名、事務局長の合計10名で構成し、4月～12月毎月第3木曜日18:30～、検討結果を12月および1月の理事会で審議をした。

【議決内容】

- ①健全財政とは期末に正味財産が次年度予算の3年分を保持されている状態とする。
- ②維持協力費の目標額を27年度は10,000千円とする。
- ③支出を抑える・校友会役員会議費を27年度は100%カットする。
・社員総会を含む校友会の懇親会費用は原則参加者負担とする。
- ④維持協力費の協力者へ会長の謝意とさらなる協力お願い文書ならびに協力者芳名録を作成し、会報発送時に同封する。

6. 平成27年度の予算：各部積上げ額を若干削減した案(26年度より減額)を2月の理事会で議決した。

各部会の報告

広報部

広報部長 田中英生

広報部は月に一度のペースで部会を開きながら、2つの仕事を進めています。一つは校友会報の発行です。

昨年掲げましたキーワード「読んでもらえる校友会報」を更に進化させるべく、学園トピック、校友会イベント、各部会の活動報告、企業で働く各同窓会のOBの活躍、楽しい支部活動、事務局からのお知らせ、など校友会活動がより見えるように工夫しました。

更なるビジュアル化も心掛けました。

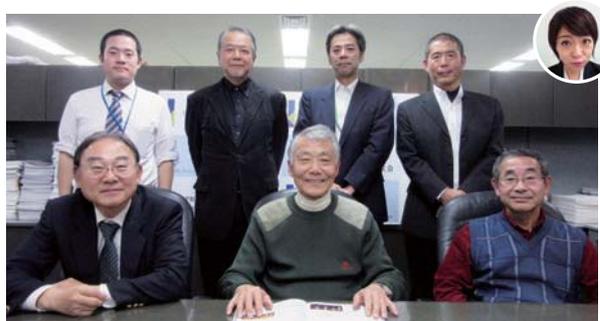
もうひとつは校友会ホームページの運用です。昨年「見易く、面白いホームページ」をキーワードに大幅な基本骨格の組み直しを行いました。今年はこの改良、熟成の年と位置付けました。次から次へといいアイデアを採用し、又細かな問題点は出るたびに潰して来ました。その結果、基本骨格の熟成と同時に、運用の仕掛けもこなれて来ました。

今後も更なる内容の充実を図っていきたいと思います。

昨年度の期の途中で加わったもうひとつの仕事があります。それは校友会の新しいしおりの作成です。校友

会とは何か、何をやっているのか等、校友会報やホームページなどからはなかなか見え難い部分を重点的に抜き出し、やさしく説明をしているパンフレットです。A4を横に三つ折りにしたサイズで、ワイシャツの胸ポケットに入ります。校友会のイベントなどのたびに会場に置かれたり、手渡しされたりするものですが、是非ご覧になって下さい。校友会活動へのご理解を深めて頂ければと思います。

頼りになるスタッフの皆さんの経験とアイデアに支えられて、3つの業務もスムーズに展開出来ました。



同窓会組織部

同窓会組織部長 小澤和重

1. 定例部会は10回実施し、新春の集い準備会合は2回行いました。「新春の集い2015」の内容検討及び準備については、9月2日の第4回定例会から検討を始めました。
2. 同窓会長会議は、機械・化学・電気・建築の「同窓会誌の指定高校への配付について」をテーマに3回実施し、取り止めとなった経過、各同窓会の現状、大学の広報の現状などについて意見交換を行いました。その結果、大学広報もネット活用やニュース発信などに変化しており、従来の送付方式では効果が見込めないことが分かり、これらの傾向を踏まえて各同窓会で検討・判断することになりました。学園の年間行事(入学式・オープンキャンパスなど)の時を活用するなどの提案が出されました。
3. 「新春の集い2015」は、平成27年1月11日(日)に行われ、多くの校友に参加いただき大盛況な集いとなりました。校友参加目標420名に対し、352名の参加で目標に到達しませんでした。校友家族・来賓・イベント参加の学生を加え408名の参加があり楽しい集いとなりました。前回出された

課題も改善を行い、参加校友に満足してもらえる新春の集いになったと思います。今回の改善結果は、マニュアルに反映します。

4. 学術講演会については、3月14日(土)に博新会と共同開催で、講師に横山修一先生を迎え、「産学連携による研究開発と若者の人材育成」という演題で行いました。出席者は、44名と昨年より大幅に増え盛況な集まりとなりました。懇親会では新たに学位を取得された7名の新会員の紹介が行われました。今後も博新会と協力し多くの校友に参加してもらえる学術講演会にして行きたいと思っています。



支部組織部

支部組織部長 谷 政美

支部組織部は、本部と支部の架け橋になり、また、支部に対するサービス部門として支部と一緒に考え、行動することをモットーにしています。

平成26年度は次の活動を実施しました。

1. 地域支部の一般社団法人移行支援

平成25年度に移行完了した41支部以外の未移行11支部について、支部別担当者を決めて移行要請を続けましたが、残念ながら実効が上がりませんでした。

支部運営規則を共通化し、支部個別の規則を廃止しました。(支部負担軽減)

2. 支部活動支援金の増額と有効配分

支部活動を活性化するための一助として、「支部活動指数」を導入し、支部活動支援金の増額を図り、7月末までに各支部に交付しました。

前年度と比較して、全支部とも増額となりました。支部活性化が期待されます。

3. 東京支部、西東京支部活性化策

校友会の活性化を目指し、校友会会員の約40%を占める東京両支部に支部組織部を加えた3者打ち合わせを実施し、第一弾として支部役員候補者に限り所属支部選択制を導入しました。

本制度は全国各支部に適用されます。

4. 大学父母懇談会への支部からの参加(学園連携部と連携)

21地区中15地区の懇談会に参加しました。今後目的の明確化、人選の適正化について、学生支援部、後援会との調整が必要と考えられます。

5. 本部と支部の意思疎通を図る

全国の報告会兼意見交換会(支部会)に積極的に参加し、結果的に開催32支部中25支部に参加しました。(12/末現在)

6. 全国支部長会開催

全国の支部長が本部開催の各種会議に参加しやすいように、総会の翌日に開催しました。この結果41支部中、38支部が参加、未参加の3支部も委任状提出により実質的に全支部参加となりました。

7. 第17回全国大会・埼玉大会支援

平成26年10月18・19日に予定通り開催し、校友:379名、同伴者:16名、来賓15名、プロローグ・寄附による参加:79名のご参加を頂きました。寄附参加も含めてですが、代議員78/90(86.7%)支部長29/41(70.7%)と高い参加率でした。

次期開催地はご希望の多い北海道に内定しました。3年後が楽しみです。

学園連携部

学園連携部長 福田忠彦

2014年度は恒例行事となっているホームカミングデーや、現役学生への支援・学生表彰などに加え、懸案となっていたバックアップセンター後継システム、校友子女の支援策などに注力した。また、新たに当部が管掌することとなった企業支部・体育会連合OB会との連携・強化を図った。

1. バックアップセンター後継システムの検討

前年度に引き続き検討を進め、(株)イーストゲート社の協力を得てトライアルを実施した。その結果を理事会に報告したが、現時点での双方向性の必要性と校友会ホームページ活用の観点から、当面はシステム構築を見送ることが決定された。

2. 校友子女入試特別選考に代わる新たな支援システムの検討

具体的な支援策として、①貸与型奨学金制度、②学園通学圏在住者による「貸し部屋」制度の検討を進め理事会へ提案をした。①については資産の運用で可能ではあるが回収率や事務処理体制などについて継続検討となった。②については、まずは八王子近郊の校友に対しその可能性を打診してみる事となった。

3. 企業支部(含む学園支部)、体育会連合OB会、との連携・強化

新たなOB・OG会運営規則に基づき、現存支部についてはそのままOB・OG会に移行して頂くこととなった。又、新しい組織作りにも努める中、学園祭実行委員会OB会が結成され、現在校友会に登録検討中である。更なるOB・OG会の立ち上げにチャレンジして行きたい。

4. ホームカミングデーへの参画・実施

昨年度初めての試みとして、八王子キャンパスでの開催とともに、案内や参加申し込みの方法が変更となった。従来の郵送による卒業年次5年毎の案内から、研究室単位に、且つWebを中心とした方法に変わった。今年度もこの申し込み方法を踏襲し新宿キャンパスで開催、前年にもまして若い校友の参加が増え、活気のある会となった。

5. 大学後援会との連携強化

支部組織部の協力のもと、校友会15支部の協力を得て父母懇談会に参加し、連携を深めた。



2015年度校友会の主な行事予定

開催予定日	行事予定	開催場所	問い合わせ先
5月31日(日)	第3回社員総会 (同日開催:各同窓会報告会・懇親会など)	新宿校舎	校友会事務局 <電話> 03-3342-2064 03-3340-1649
6月1日(月)	2015年度全国支部長会	新宿校舎	<Fax> 03-3342-2035
1月10日(日)	新春の集い2016	新宿校舎	<e-mail> jimukyoku@kogakuin.or.jp
3月中旬予定	学術講演会	新宿校舎	<校友会ホームページ> http://www.kogakuin-koyukai.jp/

※校友会ホームページ(<http://www.kogakuin-koyukai.jp/>) もご覧ください。タイムリーで詳細な行事予定が掲載されています。

学術講演会

2015年3月14日(土)に博新会との共催で工学院大学名誉教授・日本ロボット学会フェロー・NPO法人社会人キャリア力推進協会理事長 横山修一先生による2014年度の学術講演会を開催いたしました。講演会に参加された方々は「産学連携による研究開発と若者の人材育成」という講演内容を熱心に聞いておられました。



学生・生徒の表彰報告 (平成26年度総会において)

2014年5月25日に開催された工学院大学校友会第2回社員総会において、以下の諸学校の学生・生徒が成績優秀者として、校友会から顕彰され、長嶋秀世校友会会長から表彰状と副賞(高校生以上は現金5万円、中学生は2万円相当の図書カード)が贈られました。表彰される学生・生徒は、毎年校友会が依頼し、諸学校から推薦されます。

大学院	専攻	氏名
	機械工学専攻2年	能野晋太郎
	化学応用学専攻1年	砂川 晶
	電気・電子工学専攻1年	新保 涉
	情報学専攻1年	坂田 直人
	建築学専攻2年	垣中 智博

大学	専攻	氏名
工学部1部	機械工学科2年	浅野 祥爾
工学部1部	機械工学科2年	田中 彩音
工学部1部	機械システム工学科2年	許 夢璇
GE学部	機械創造工学科2年	堀井 孝亮
工学部1部	応用化学科2年	庄司 直樹
工学部1部	応用化学科2年	木口 孝顕
工学部1部	環境エネルギー化学科2年	土屋 淳
工学部1部	電気システム工学科2年	丸山 達也

工学部1部	情報通信工学科3年	栗原 駿
情報学部	コンピュータ科学科2年	平賀 友那
情報学部	情報デザイン学科2年	山田 昇平
建築学部	建築学部2年	酒井 麻佑
建築学部	建築学部2年	渡辺 俊也
建築学部	建築学部2年	緒方 景子
工学部2部	建築学科2年	齋藤 大海

附属高等学校	学年	氏名
	中高一貫コース3年	杉田 茉優
	特進コース3年	高橋樹里也
	普通コース2年	横田 拓生

附属中学校	学年	氏名
	3年	高野 真維
	2年	杉崎 あゆみ

受賞・表彰報告

三村喜宏氏 旭日双光章受章祝賀会

平成26年秋の褒章で、三村善宏氏（昭和37年大学機械工学科卒 埼玉県西支部）が旭日双光章の榮譽を受けられました。

三村氏は昭和37年に工学院大学を卒業された後、第一工業株式会社へ入社され、その後昭和45年に三村工業（コンベアー他各種搬送装置の製造）を創業されました。

また、地元商工会活動でもご活躍され、現在は埼玉県商工会連合会副会長も努められています。

平成19年には、黄綬褒章も受章されています。



工藤一博氏 東北経済産業局表彰を受賞



平成27年2月18日、工藤一博氏（昭和50年大学電気工学科卒）が東北経済産業局より「東北再生可能エネルギー利活用大賞」の表彰を受けられました。

工藤氏は、現在 工藤建設株式会社の代表取締役としてご活躍中です。



訃 報

次の方々をご逝去されました。

ご生前のご活躍を偲び謹んでご冥福をお祈りいたします。

校友会理事・化学系同窓会長
元校友会西湘支部長

菊地 正氏
重田 光廣氏

平成26年4月4日ご逝去
平成26年8月24日ご逝去

校友会前理事・専門学校同窓会長
専門学校元教員

阿部 洵氏

平成27年3月13日ご逝去

第2回 校友会代議員選挙投票結果

第2回 校友会代議員選挙は、2014年11月1日～10日に立候補を受け付け、同12月1日～10日に投票を行いました。投票の結果は、以下のとおりとなりましたのでご報告いたします。

なお、今回選出されました代議員の方々の任期は、2015年4月1日～2017年3月31日までとなります。

機械系同窓会			
候補者数 19、定員 17、補欠 2			
順位	氏名	得票数	
1	関谷 重彦	23	当選
2	田中 英生	22	当選
3	笠原 又一	20	当選
4	谷井 繁夫	19	当選
5	並木 光雄	17	当選
6	岡崎 明男	15	当選
7	梶田 和男	12	当選
8	木下 幸秀	11	当選
8	前田 道德	11	当選
10	小川 文夫	10	当選
11	坂口 教子	9	当選
12	植木 幸裕	8	当選
12	横田 仁	8	当選
14	柏原 靖	6	当選
14	唐鎌 貞郎	6	当選
16	近藤 智	5	当選
17	朝山 邦夫	4	当選
18	岡崎 孝宣	2	補欠
19	中山 佳則	1	補欠
全19名	合計	209	

建築系同窓会			
候補者数 19、定員 16、補欠 2			
順位	氏名	得票数	
1	濱田 昭夫	57	当選
2	田野 遼幸裕	36	当選
3	楠 昭	28	当選
4	上野 光三	26	当選
5	佐藤 英雄	20	当選
6	佐藤 弘規	17	当選
7	阿部 信夫	15	当選
8	勝谷 尚武	11	当選
9	高木 雅行	10	当選
10	鈴木 敏彦	9	当選
11	佐藤 健	8	当選
11	澤崎 宏	8	当選
13	関谷 源次	6	当選
13	平井 充	6	当選
15	新海 俊一	4	当選
16	船越 康弘	3	当選 *
16	関谷 真一	3	補欠 *
18	半田 雅俊	2	補欠
19	香川 浩	1	
全19名	合計	270	

*代議員選出規則第13条4項5項による抽選により決定

化学系同窓会			
候補者数 15、定員 12、補欠 2			
順位	氏名	得票数	
1	若松 昭秀	12	当選
2	吉岡 利幸	10	当選
3	志村 豊	8	当選
4	小野寺 康	7	当選
4	白井 精滋	7	当選
6	矢ヶ崎隆義	3	当選
6	和田 欣也	3	当選
8	古川 和弥	2	当選
8	遊馬 靖美	2	当選
10	釜谷 美則	1	当選 *
10	坂本 将馬	1	当選 *
10	山口 和男	1	当選 *
10	吉川 重克	1	補欠 *
10	菅原 康里	1	補欠 *
10	山内 俊行	1	*
全15名	合計	60	

*代議員選出規則第13条4項5項による抽選により決定

附属高校同窓会			
候補者数 16、定員 15、補欠 1			
順位	氏名	得票数	
1	三宅 捷夫	28	当選
2	鄭 雄飛	13	当選
3	五十嵐 功	8	当選
4	飯塚 辰典	4	当選
4	若林 勝司	4	当選
6	岡安 彰	2	当選
6	島田 浩行	2	当選
8	荒井 翔平	1	当選 *
8	内野 正之	1	当選 *
8	太田 正利	1	当選 *
8	小口 俊明	1	当選 *
8	小林 保男	1	当選 *
8	田中 元樹	1	当選 *
8	広田 慶孝	1	当選 *
8	深瀬友里加	1	当選 *
8	小川 隆	1	補欠 *
全16名	合計	70	

*代議員選出規則第13条4項5項による抽選により決定

電気系同窓会			
候補者数 21、定員 17、補欠 2			
順位	氏名	得票数	
1	長谷川 努	54	当選
2	唐崎 幸弘	29	当選
2	佐々木三七司	29	当選
4	甘粕 一彦	28	当選
5	原 貴子	24	当選
6	上野 耕平	21	当選
7	小沢 和重	15	当選
8	半沢 悟	14	当選
9	田中 久弥	13	当選
10	名取 勝敏	11	当選
11	山崎 貞郎	6	当選
12	新井 英伸	5	当選
12	島林 正美	5	当選
12	箕谷 祐也	5	当選
15	千田 康弘	4	当選
15	高橋 佳大	4	当選
17	鷹野 一朗	3	当選 *
17	久禮 和彦	3	補欠 *
19	田中 晃	2	補欠
20	青井 瑛	1	
20	渡辺 裕明	1	
全21名	合計	277	

*代議員選出規則第13条4項5項による抽選により決定

専門学校同窓会			
候補者数 15、定員 13、補欠 2			
順位	氏名	得票数	
1	相澤 良夫	36	当選
2	渡辺 征三	21	当選
3	井上 博明	13	当選
3	駒崎 健一	13	当選
5	櫻井 良尚	12	当選
6	山川 義則	11	当選
7	利部 靖彦	7	当選
8	篠崎 秀夫	6	当選
8	丸茂 聡	6	当選
10	平山 徹夫	5	当選
11	書上 正	4	当選
11	佐藤 信一	4	当選
11	渡邊 克己	4	当選
14	矢口 稔	2	補欠
15	牧野 光洋	1	補欠
全15名	合計	145	

新理事・各部新メンバーにつきましては順次校友会ホームページに掲載の予定です。

科学教育センターより科学機器の収集・展示のお知らせ

工学院大学科学教育センターでは、歴史的・教育的価値を有する科学機器や文献資料などの収集・展示をおこなっております。

これまでに校友の皆様をはじめ教職員など様々な皆様にご協力をいただき、およそ400点の資料を収集することができました。収集資料は新宿キャンパス1階アトリウムなどで展示し、学園関係者のみならず来校者からも好評を得ております。

今後は資料の収集を進めるとともに、学園内に

展示・活用スペースを更に拡充していく予定です。

お心当たりの資料・情報がございましたら、下ぜひ記担当までご一報ください。

皆様のご理解・ご協力を賜りたく、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

【担当】科学教育センター 田中
電話：03-3340-2438 FAX：03-3340-3549
E-mail：yutaka_tanaka@sc.kogakuin.ac.jp



Basicom162 (卓上電子計算機)
(基礎・教養教育部門 物理学教室使用)



Imperial 欧文タイプライター
(若松昭秀氏寄贈)



化学天秤
(基礎・教養教育部門 物理学教室使用)



手回し計算機 NCM SM-21
(藏原清人先生寄贈)

ボランティア

体育会連合OB会から 今年も「東京マラソン2015」を応援しました

第9回「東京マラソン2015」が2015年2月22日(日)の小雨模様の朝3万6千人のランナーが都庁前をスタートしました。

本学からも、岡野 慎(建築学部3年)丸山洋征(1968年建築空手道部OB)鈴木次男(1981年建築空手道部OB)新井 晋(1989年建築サッカー部OB)の4名が11倍の難関を突破しランナーに選ばれ堂々と完走しました。

我が工学院大学は、第3回から新宿キャンパスに於いて体育会学生・OBが主体となり後援会、学園、校友会の協力、支援を受けトイレ及び着替え場所の提供を行い、約2000名のランナーに便宜を図りました。同時に地下通路を通過されたランナーも含め2600枚の大学名入りハ

ンドタオル(校友会からの支援)を配布しました。

今回校友会からは、学園連携部5名、三和シヤッターOB会6名、体育会連合OB会の21名併せ32名の皆さんに朝早くから協力頂きました。

利用されたランナーの皆さんから「ありがとう」の言葉を頂き、大学のイメージアップにも貢献できたかなとやり甲斐を感じました。

引き続き「オール工学院大学」として地域貢献活動を継続したいと考えております。

会員の皆さん、ご声援下さい。



校友会事務局から

孔子学院：HSK 受験料半額

本学の孔子学院は、中国語の検定試験「HSK」の試験実施認定校です。「HSK」は、中国政府が世界各国で実施している中国語レベルテストで、就職や転職に役立つ資格試験です。

この試験を卒業生が工学院大学で受験する場合、受験料が半額になります。どうぞご利用ください！

* 申込サイトが一般サイトと異なります。お申込前に、孔子学院にお問い合わせください。

* 申込時に「卒業生」とお申し出のあった方のみ、適用されます（お申し出の無かった場合は、一般料金の適用となります）。

例) HSK 6 級(上級者レベル) 一般 9504 円 → 卒業生 4752 円
HSK 2 級(簡単な日常会話レベル) 一般 4752 円 → 卒業生 2376 円

〈孔子学院事務局〉 E-mail : cik@kogakuin.ac.jp

電話 : 03-3340-1457

オープンカレッジ：建築講座 受講料割引のお知らせ

オープンカレッジでは、2015 年度より「家づくり学校」を共催します。活躍中の建築家から座学、見学会、課題を通して学ぶプログラムです（2014 年日本建築学会教育賞受賞）。学費（1 年間）は通常 6 万円ですが、卒業生は 4 万 8 千円で受講できます。

詳しくは、実施団体「家づくり学校」のホームページ

<http://npo-iezukurinokai.jp/> をご覧ください。

※お問い合わせは、info@npo-iezukurinokai.jp をお願いします。

卒業生の学び直しの場として、是非ご活用ください。

校友会談話室のご利用について

新宿校舎の高層棟 28 階にある校友会談話室は、校友会員間の親睦や同期会、サークル等にご利用いただけます（16 名程度まで）。日曜・祝祭日・学園休日を除く 9 時から 17 時までご利用可能です。セルフサービスのコーヒーを用意しておりますので、会員の皆様が東京・新宿においてになった際は、どうぞお立ち寄りください。

ご利用のお申し込みは、校友会事務局をお願いします。

〈校友会事務局〉

E-mail:jimukyoku@kogakuin.or.jp

電話 : 03-3342-2064



ファカルティクラブのご利用について

新宿校舎中層棟 8 階にあるサロン調のファカルティクラブ(写真)は、会員の方々が校友会事務局経由で利用申し込みをされた場合には、利用料が無料となります（60 名程度まで）。同窓会、支部・クラス会、懇親会等にご利用ください。

ご利用のお申し込みは、校友会事務局をお願いします。

〈校友会事務局〉

E-mail:jimukyoku@kogakuin.or.jp

電話 : 03-3342-2064



広報部からのお知らせ

広告募集

あなたの会社や 製品を紹介しませんか？

本誌は、日本全国で活躍している工学院大学の卒業生を中心に、約6万7千人に配布しています。貴社の活動や製品・サービスを6万7千人に紹介してみませんか。

【募集対象】企業、組織、団体などの広告宣伝など

【掲載紙】工学院大学校友会報 Vol.137

【発行予定日】2016年4月25日

【発行部数】約67,000部

【主な配布先】工学院大学、同附属高等学校・中学校の卒業生、専門学校の卒業生、卒業生のご父母、現任教員、学園関係者、監督官庁

【掲載料金】第2表紙16万円/頁、本文内12万円/頁、6万円/半頁（全頁カラー）

【募集締切り】2016年1月15日

【出稿原稿】EPS、PDFなど。詳細は工学院大学校友会事務局に。

記事募集

近況を校友会報や ホームページで紹介 しませんか？

広報部では、校友のみなさまの活動を本誌やホームページを使ってお手伝いします。支部、同窓会、同期会主催のイベント案内や参加者募集、楽しかった近況活動など、お気軽にお知らせ下さい。

また、校友のみなさまがご執筆された書籍の紹介もいたしますので、工学院大学校友会事務局にご連絡ください。



【お問合せ・原稿送付先】
工学院大学校友会事務局まで（巻末に記載）

編集 後記

早いもので、新生工学院大学校友会がスタートしてから2年が過ぎ、本誌の中で紹介しました通り昨年12月にはすでに第2回代議員選挙が行なわれました。

この2年間に広報部では“校友会報”のあり方について原点に立ち戻り、昨年度は“読んでもらえる校友会報”を目指し大幅な内容の見直しを図ってきました。本年度では、長嶋校友会長の『楽しい校友会を目指す』という方針の下、校友のみなさまに学園の今と楽しい校友会の活動状況をお伝えしようとの思いで作成しました。また、校友のみなさまにとって“見やすく・役に立つホームページ”の作成にも取り組んできました。校友会、支部、同窓会などの主な行事案内や各支部の近況などは是非ホームページをご覧になってください。

本年は、“終戦70周年”の節目を迎える年です。昨年夏に、戦時中に学園生活を送られた大先輩との出会いがあり、当時の学園の様子などを今回みなさまにご紹介しました。

このように広報活動を通じてこれからも、年齢という垣根を越えた校友の“絆”を広げてゆくことが出来れば広報として大変うれしく思います。

最後になりますが本号の発行に多大なるご支援・ご協力を賜りました学園理事長、大学学長、附属中学校・高等学校校長をはじめ、ご執筆いただきました校友のみなさま、広告出稿頂きました各企業の方々に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

TOKYO URBAN TECH 工学院大学 校友会報 Vol.136

発行日 2015年4月20日

発行 一般社団法人 工学院大学校友会

住所 〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2

電話 03-3342-2064 03-3340-1649

FAX 03-3342-2035

メール jimukyoku@kogakuin.or.jp

編集 工学院大学校友会 広報部

【部長】田中英生(機械)

【副部長】常磐英晴(電気)、坂口教子(機械)、吉川重克(化学)、名取勝敏(電気)、笹原克(建築)、田中元樹(高校)、丸茂 聡(専門学校)

印刷・製本・デザイン 日本印刷株式会社

工学院大学校友会 校友会報のホームページはこちらから

<http://www.kogakuin-koyukai.jp/>



工学院大学校友会

検索

最新情報・イベント情報は
こちらでチェック!

携帯スマホはこちらからアクセス!

